

\* قَالَ الْمَلَأُ الَّذِينَ اسْتَكْبَرُوا مِنْ قَوْمِهِ لَنُخْرِجَنَّكَ بِدُشَعِيبٍ  
 وَالَّذِينَ آمَنُوا مَعَكَ مِنْ قَوْمِنَا أَوْ لَنَعُودَنَّ فِي مِلَّتِنَا قَالَ أُولُو  
 كُنُافِرِهِمْ ﴿٨٨﴾ قَدْ أَفْتَرْنَا عَلَى اللَّهِ كَذِبًا إِنْ عُدْنَا فِي مِلَّتِكُمْ بَعْدَ  
 إِذْ بَخْنَا اللَّهُ مِنْهَا وَمَا يَكُونُ لَنَا أَنْ نَعُودَ فِيهَا إِلَّا أَنْ يَشَاءَ  
 اللَّهُ رَبُّنَا وَسِعَ رَبُّنَا كُلَّ شَيْءٍ عِلْمًا عَلَى اللَّهِ تَوَكَّلْنَا رَبُّنَا أَفَتَحِ  
 بَيْنَنَا وَبَيْنَ قَوْمِنَا بِالْحَقِّ وَأَنْتَ خَيْرُ الْفَاتِحِينَ ﴿٨٩﴾ وَقَالَ الْمَلَأُ  
 الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ قَوْمِهِ لَئِنِ اتَّبَعْتُمْ شُعَيْبًا إِنَّكُمْ إِذًا لَخٰسِرُونَ  
 ﴿٩٠﴾ فَأَخَذَتْهُمُ الرَّجْفَةُ فَأَصْبَحُوا فِي دَارِهِمْ جِثِيمِينَ ﴿٩١﴾ الَّذِينَ  
 كَذَّبُوا شُعَيْبًا كَانُوا لَمْ يَعْمُرُوا فِيهَا الَّذِينَ كَذَّبُوا شُعَيْبًا كَانُوا  
 هُمُ الْخٰسِرِينَ ﴿٩٢﴾ فَتَوَلَّى عَنْهُمْ وَقَالَ يَا قَوْمِ لَقَدْ أَبْلَغْتُكُمْ  
 رِسَالَتِ رَبِّي وَنَصَحْتُ لَكُمْ فَكَيْفَ آسَأَ عَلَى قَوْمٍ  
 كَافِرِينَ ﴿٩٣﴾ وَمَا أَرْسَلْنَا فِي قَرْيَةٍ مِّن نَّبِيٍّ إِلَّا أَخَذْنَا أَهْلَهَا  
 بِالْبَأْسَاءِ وَالضَّرَّاءِ لَعَلَّهُمْ يَضَّرِعُونَ ﴿٩٤﴾ ثُمَّ بَدَّلْنَا  
 مَكَانَ السَّيِّئَةِ الْحَسَنَةَ حَتَّىٰ عَفَوا وَقَالُوا قَدْ مَسَّ آبَاءُنَا  
 وَالضَّرَّاءُ وَالسَّرَّاءُ فَأَخَذْنَاهُمْ بَغْتَةً وَهُمْ لَا يَشْعُرُونَ ﴿٩٥﴾

88 かれの民の中の高慢な指導者たちは言った。「シュア  
 イブ(平安を)よ、わたしたちは、あなたとあなたを信じた  
 人々を、わたしたちの町から必ず追い出すぞ。そうさせ  
 なければ、わたしたちの宗教に戻るべきだ。」かれは  
 驚きながら否定しつつ言った。「たとえわたしたちが、間  
 違っているあなた方の宗教と共同体を嫌っていてもか。  
 」

89 アッラーがその恵みによりわたしたちを助けた後、もし  
 あなた方の多神と不信仰の教えに戻ったならば、アッ  
 ラーに対して嘘をついたことになる。そしてわたしたちの  
 主、アッラーがお望みにならない限り、間違った共同体  
 に戻ることは正しくないのでわたしたちにはできない。  
 本当にアッラーのお望みのままであり、その知識は、あら  
 ゆる事物に及び、何も隠すことはできない。わたしたち  
 が正しい道にいて地獄への道から守られるのは、アッラ  
 ーのみに依拠するからだ。わたしたちのアッラーよ、わた  
 したちと不信仰な人々の間を真理によってお裁きくださ  
 い。虐待された真理の友を執拗な不正者に対して、勝利  
 させてください。あなたは最も優れた裁決者です。

90 かれの民の中にいる、唯一性を拒否する不信仰者の  
 指導者たちは、シュアイブとその支持者たちに警告して  
 言った。もしあなた方がシュアイブに従って、祖先の宗教  
 を捨てるならば、破滅をみるだろう。

91 すると大地震がかれらを襲い、翌朝までにかれらは死  
 んで、その家の中に顔と膝を下にして倒れていた。

92 シュアイブを嘘呼ばわりした人たちは、そこに住んで  
 いなかったかのようで、そこで生活していなかったようだ  
 った。シュアイブを嘘呼ばわりした人たちは、確かに失敗  
 者だった。自らを損ない、また所持するものも損なった。  
 しかし信者はそうではなく、嘘つきの不信仰者たちの言  
 ったことは当たっていなかったのだ。

93 そしてかれ(平安を)は破滅したその民から立ち去って、言った。わたしの民よ、確かにわたしは、あなた方にアッラーのお告げを  
 伝え、助言をした。しかしその助言を受け入れず、わたしの指導に従わなかった。だから信仰をしつこく拒否し、そうしない人々のた  
 めに、どうしてわたしが嘆くことがあるか。

94 われらはある町に預言者を遣わしたが、人々は嘘だとして不信仰を表明した。そこでかれらを悲惨さと貧困と病でもって捕ら  
 えた。それは、その民が謙虚になって、不信仰と傲慢さを捨てることを望んでのこと。これはクライシュ族への警告であり、嘘つきの社  
 会においてアッラーの教えに不信仰で嘘呼ばわりする人々全員への警告だった。

95 その後、われらが悲惨さと病でとらえてから富や安全を与え、数も増えて資産も増大すると、かれらは言い出した。わたしたちの  
 先祖も以前に、善いことと悪いことがあった。しかしかれらは、その困難に学ぶべき教訓があり、その安楽に試練があるということ  
 に気付かなかった。だからわれらがかれらが気付かない間に、突然かれらを襲ったのだ。

本諸節の功德:

- 正しい信者に対してのアッラーの恵みの一つは、真理を過ちと区別する知識の扉を開けられるということである。そして信者は救われ、不信仰者は罰せられる。
- 信者に時間の余裕を与えられるのは、アッラーのやり方である。それは出来事に学び、背反や破壊から抜け出すためである。
- 多くの人は厳しい試練や困難には辛抱強いが、豊かさについて辛抱強い人は少ない。

وَلَوْ أَنَّ أَهْلَ الْقُرَىٰ ءَامَنُوا وَاتَّقَوْا لَفَتَحْنَا عَلَيْهِم بَرَكَاتٍ  
 مِّنَ السَّمَاءِ وَالْأَرْضِ وَلَٰكِن كَذَّبُوا فَأَخَذْنَهُم بِمَا كَانُوا  
 يَكْسِبُونَ ﴿٩٦﴾ أَفَأَمِّنَ أَهْلُ الْقُرَىٰ أَن يَأْتِيَهُم بَأْسُنَا  
 بَيْتَاتٍ وَهُمْ نَائِمُونَ ﴿٩٧﴾ وَأَمِنَ أَهْلُ الْقُرَىٰ أَن يَأْتِيَهُم  
 بَأْسُنَا صُحْحًا وَهُمْ يَلْعَبُونَ ﴿٩٨﴾ أَفَأَمِنُوا مَكْرَ اللَّهِ  
 فَلَا يَأْمَنُ مَكْرَ اللَّهِ إِلَّا الْقَوْمُ الْخَاسِرُونَ ﴿٩٩﴾ أَوَلَمْ يَهْدِ  
 لِلَّذِينَ يَرْتُوثُونَ الْأَرْضَ مِنْ بَعْدِ أَهْلِهَا أَن لَّوْنُ شَاءِ  
 أَصْبَتْهُمْ يَدْخُوبُهُمْ وَيَنْطَعُ عَلَى قُلُوبِهِمْ فَهُمْ لَا يَسْمَعُونَ  
 ﴿١٠٠﴾ تِلْكَ الْقُرَىٰ نَقِصُ عَلَيْكَ مِنْ أَنبِيَآئِهَا وَلَقَدْ جَاءَتْهُمْ  
 رُسُلُهُم بِالْبَيِّنَاتِ فَمَا كَانُوا لِيُؤْمِنُوا بِمَا كَذَّبُوا مِنْ  
 قَبْلُ كَذَلِكَ يَطْبَعُ اللَّهُ عَلَى قُلُوبِ الْكَافِرِينَ ﴿١٠١﴾ وَمَا وَجَدْنَا  
 لِأَكْثَرِهِمْ مِنْ عَهْدٍ وَإِن وَجَدْنَا أَكْثَرَهُمْ لَفَاسِقِينَ ﴿١٠٢﴾  
 ثُمَّ بَعَثْنَا مِنْ بَعْدِهِم مُّوسَىٰ بِآيَاتِنَا إِلَىٰ فِرْعَوْنَ وَمَلَآئِهِ  
 فَظَلَمُوا بِهَا فَانظُرْ كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ الْمُفْسِدِينَ ﴿١٠٣﴾  
 وَقَالَ مُوسَىٰ يُفْرَعُونَ إِنِّي رَسُولٌ مِّن رَّبِّ الْعَالَمِينَ ﴿١٠٤﴾

⑨⑥ もしこれらの町の人々が信仰してアッラーを畏れ、不信仰と反逆を捨て、その命令に服したならば、われらはいずれの方向からも、きっとその扉を開いただろう。でもかれらは預言者たちを信用せず、畏怖しないで、預言者たちがもたらしたものを嘘呼ばわりした。だからわれらは、かれらが稼いできた罪悪のために突然捕らえて、苦痛を与えたのだ。

⑨⑦ これらの嘘つきの町の人々は、夜かれらが静かに眠って休んでいる間に、われらの懲罰が来ないと安心できるのか。

⑨⑧ またこれらの町の人々は、昼かれらが現世のことで戯れている間に、われらの懲罰が来ないと安心できるのか。

⑨⑨ アッラーがかれらに時間的な余裕を与えられ、かれらに力と糧を試練として与えられるのを見る。それらの町の嘘つきたちは、アッラーの企みと深謀に安心できるのか。アッラーの深謀に安心できるのは、失敗者だけなのだ。成功する者はそれを恐れ、かれらの与えられた恵みについて誤解しないで、その気前良さを認め、アッラーに感謝するのだ。

⑩① その罪のために滅びた民の後この地を継いだ人々は、以前の人たちに襲ってきたことを学ばず、むしろその行動を模倣した。かれらにはアッラーが望めばその慣行に従い、かれらを罰することが明らかにならないのか。またその心を封じて教えを聞こえなくしてしまい、警告から得るところもなくなってしまふことを。

⑩② 預言者よ、ヌーフ、フード、サーリフ、ルート、シュアイブの民たちが、いかに嘘つきで頑固であったか、そしてどのような罰をくらったかを、熟慮する人たちの教訓と助言を受け入れる人たちの警告として、あなたに話し伝えよう。確かに使徒たちは言うことが至当であるとの明証を。

持って、かれらのところに来た。でもかれらは以前の民が拒否したように、信じようとしなかった。かれらの心をアッラーは閉じられたが、ムハンマド(アッラーの祝福と平安を)を信じない人たちの心も同様に閉じられるのだ。そしてかれらは信仰へと導かれることはない。

⑩③ 預言者たちが遣わされた人たちの多くがアッラーの助言や命令を守らずに、アッラーに背いている人たちであることをわれらは知った。

⑩④ それでかれらの後にわれらは、真実であるとの証明となる印と共に、預言者ムーサー(平安を)をフィルアウンとその民に対して遣わした。ところがかれらはそれらを拒否し、信じなかった。そこで預言者よ、かれらの末路がどんなものかを見よ。アッラーはかれらを沈められ、現世と来世で拒否されたのだ。

⑩⑤ 遣わせられたムーサーは言った。フィルアウンよ、誠にわたしは、すべての世界の主でその所有者ですべてを統率する方から遣わされた使徒なのだ。

#### 本諸節の功德:

- 信仰と正しい行いは、天と地上において民に対し善と祝福を豊かに与える源である。
- 糧と篤信とは密切な関係がある。アッラーの不信仰な人に対する恩恵はかれらにとって試練であり、その方向に引き入れる企みでもある。
- 僕は懲罰が夜であれ昼であれ、突如としてやって来ることを知るべきである。
- クルアーンが過去の諸民族のことを語るの、信者を確固たるものとして、不信仰な人たちに警告するためである。

حَقِيقٌ عَلَىٰ أَنْ لَا أَقُولَ عَلَى اللَّهِ إِلَّا الْحَقُّ قَدْ جِئْتُكُمْ بِبَيِّنَةٍ  
 مِنْ رَبِّكُمْ فَأَرْسِلْ مَعِيَ بَنِي إِسْرَائِيلَ ﴿١٥٥﴾ قَالَ إِنْ كُنْتَ  
 جِئْتَ بِآيَةٍ فَآتِ بِهَا إِنْ كُنْتَ مِنَ الصَّادِقِينَ ﴿١٥٦﴾ فَأَلْقَى  
 عَصَاهُ فَإِذَا هِيَ ثُعْبَانٌ مُبِينٌ ﴿١٥٧﴾ وَنَزَعَ يَدَهُ وَفِذَا هِيَ بَيْضَاءُ  
 لِلنَّظِيرِينَ ﴿١٥٨﴾ قَالَ الْمَلَأُ مِنْ قَوْمِ فِرْعَوْنَ إِنَّ هَذَا السَّحَرُ  
 عَلَيْكُمْ ﴿١٥٩﴾ يُرِيدُ أَنْ يُخْرِجَكُمْ مِنْ أَرْضِكُمْ فَمَاذَا تَأْمُرُونَ  
 ﴿١٦٠﴾ قَالُوا أَرْجِهْ وَأَخَاهُ وَأَرْسِلْ فِي الْمَدَائِنِ حَاشِرِينَ ﴿١٦١﴾ يَا نُؤُوكَ  
 بِكُلِّ سَجِرٍ عَلِيمٍ ﴿١٦٢﴾ وَجَاءَ السَّحَرَةُ فِرْعَوْنَ قَالُوا إِنَّ  
 لَنَا لَأَجْرًا إِنْ كُنَّا نَحْنُ الْغَالِبِينَ ﴿١٦٣﴾ قَالَ نَعَمْ وَإِنَّكُمْ  
 لَمِنَ الْمَقْرَبِينَ ﴿١٦٤﴾ قَالُوا يَا مُوسَىٰ إِمَّا أَنْ تُلْقَىٰ وَوَمَا أَنْ  
 تَكُونَ نَحْنُ الْمُلْقِينَ ﴿١٦٥﴾ قَالَ أَلْقُوا فَلَمَّا أَلْقَوْا سَحَرُوا  
 أَعْيُنَ النَّاسِ وَأَسْرَبُوهُمْ وَجَاءَهُمْ بِسِحْرِ عَظِيمٍ ﴿١٦٦﴾  
 \* وَأَوْحَيْنَا إِلَىٰ مُوسَىٰ أَنْ أَلْقِ عَصَاكَ فَإِذَا هِيَ تَلْقَفُ مَا يَأْفِكُونَ  
 ﴿١٦٧﴾ فَوَقَعَ الْحَقُّ وَبَطَلَ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿١٦٨﴾ فَغَلَبُوا  
 هُنَالِكَ وَانْقَلَبُوا صَبْرِينَ ﴿١٦٩﴾ وَأَلْقَى السَّحَرَةُ سِحْرَ بَدِينٍ ﴿١٧٠﴾

الجزء التاسع

105 ムーサーは言った。間違いなく、アッラーに遣わせられた以上、真理の他にわたしがアッラーについて言うことはない。確かにわたしは、アッラーからの明証を持って、あなた方のところに来た。だからイスラエルの子孫を、囚われと強制から救って、わたしと一緒に行かせよ。

106 フィルアウンは言った。もしあなたが印を持って来たのであれば、そしてあなたが正直者ならば、それを示しなさい。

107 そこでかれは、自分の杖を投げた。するとそれは明らかに大蛇になった。

108 次にかれが胸近くの、あるいは脇の下の下着の空いた所からその手を出した。するとそれは癩病でもないのに、誰にもきらきらと白く見えた。

109 フィルアウンの民の指導者たちは言った。杖が変化したり、手が白くなったり、ムーサーは確かに熟練の魔術師だ。

110 かれはこの土地、エジプトからあなたを追出すつもりなのだというので、フィルアウンがムーサー(平安を)について言った。ではあなた方の助言は？

111 かれらは言った。ムーサーとその兄ハールーンを留めさせ、町々から魔術師を召集する者を遣わそう。

112 腕の立つ魔術師全員が、エジプトの町々からあなたのもとに来るだろう。

113 それから魔術師たちは、フィルアウンのところに来て言った。わたしたちがムーサーに対して勝者となれば、わたしたちには報酬があるのか。

114 フィルアウンは言った。そうだ。あなた方には、報酬があり、またわたしの側近の部署もあるだろう。

115 かれらは優越心と増長もあり、言った。ムーサーよ、あなたが投げるのか、それともわたしたちが先に投げるのか。

116 かれはアッラーが勝たせてくれると信頼して、心配せずに言った。あなた方が先に、綱と杖を投げなさい。そこでかれらが投げると、人々の目を惑わし恐れさせ、大魔術を見せた。

117 そこでアッラーは、ムーサー(平安を)に申し渡した。あなたの杖を投げよ。そこでかれが投げると、それは突然蛇になり、それはかれらが蛇に見せかけて使用していた綱や杖を飲み込んでしまった。そして蛇だと思っていた人々の幻惑を打ち破ったのだった。

118 こうして真理は確認されて、ムーサー(平安を)の言うことの正しいことも証明され、かれらがしたことは虚偽だとわかった。

119 かれらは打ち負かされ、人前ですっかり恥さらしとなった。

120 魔術師たちはアッラーの偉力のすごさと明瞭な印を目にした時、身を投げ出して至高なるアッラーに平伏するだけだった。

**本諸節の功德:**

- アッラーの知恵であり慈悲として、どの預言者の奇跡もその民族にとって広まっていた、分かりやすいものを選ばれた。
- フィルアウンは、本当は低俗で恥ずべき無能な僕であった。そうでなければ、ムーサー(平安を)に対抗するために、魔術師たちに助力を必要としなかった。
- 悪魔にお願いしつつ、報酬とフィルアウンの下で榮譽を得ようとする魔術師たちは、その弱点を示した。

قَالُوا يَا مَتَابِرِيبِ الْعَالَمِينَ ﴿١٢١﴾ رَبِّ مُوسَىٰ وَهَارُونَ ﴿١٢٢﴾ قَالَ  
 فِرْعَوْنُ يَا مَنُومُ مَا مَنَعَكَ قَبْلَ أَنْ تَكْفُرَ إِنَّ هَذَا مَكْرٌ  
 مَكْرُتُمْ فِي الْمَدِينَةِ لَتُخْرِجُوا مِنْهَا أَهْلَهَا فَسَوْفَ تَعْمَلُونَ  
 ﴿١٢٣﴾ لَا قُطْعَانَ أَيِّدِكُمْ وَأَرْجُلَكُمْ مِّنْ خَلْفٍ ثُمَّ لَا صَلْبَ لَكُمْ  
 أَجْمَعِينَ ﴿١٢٤﴾ قَالُوا إِنَّا إِلَىٰ رَبِّنَا مُنْقَلِبُونَ ﴿١٢٥﴾ وَمَا نَقِمُ مِنْهَا  
 إِلَّا لَأَن آءَاءَ مَنَابِرِكِ رَبِّنَا لَمَّا جَاءَ تَنَابِرُنَا أَفْرَجَ عَلَيْنَا صَبْرًا  
 وَتَوَقَّاتِ مُسْلِمِينَ ﴿١٢٦﴾ وَقَالَ الْمَلَأُ مِنْ قَوْمِ فِرْعَوْنَ أَتَدْرُسُونِي  
 وَقَوْمَهُ وَيُقْسِدُوا فِي الْأَرْضِ وَيَذُرُّكَ وَيَأْتِيكَ قَالَ سَنَقْتُلُ  
 أَبْنَاءَهُمْ وَنَسْتَحْيِي نِسَاءَهُمْ وَإِنَّا فَوْقَهُمْ قَاهِرُونَ ﴿١٢٧﴾  
 قَالَ مُوسَىٰ لِقَوْمِهِ اسْتَعِينُوا بِاللَّهِ وَاصْبِرُوا إِنَّ الْأَرْضَ  
 لِلَّهِ يُورِثُهَا مَنْ يَشَاءُ مِنْ عِبَادِهِ وَالْعَاقِبَةُ لِلْمُتَّقِينَ ﴿١٢٨﴾  
 قَالُوا أُوذِينَا مِنْ قَبْلِ أَنْ تَأْتِيَنَا وَمِنْ بَعْدِ مَا جِئْتَنَا قَالَ  
 عَسَىٰ رَبُّكُمْ أَنْ يُهْلِكَ عُدُوَّكُمْ وَيَسْتَخْلِفَكُمْ فِي الْأَرْضِ  
 فَيَنْظُرَ كَيْفَ تَعْمَلُونَ ﴿١٢٩﴾ وَلَقَدْ أَخَذْنَا آلَ فِرْعَوْنَ  
 بِاللِّسِنِينَ وَنَقَصْنَا مِنَ الثَّمَرَاتِ لَعَنَهُمْ يَدَّكَرُونَ ﴿١٣٠﴾

①21 魔術師たちは言った。わたしたちは、全創造の主を信じる。

①22 ムーサーとハールーン(平安を)の主は、すべての人の祈りの対象であり、虚偽の神は祈るに値しない。

①23 フィルアウンは、かれらのアッラー信仰に対して脅かして言った。あなた方は、わたしが許していないのにかれを信じるのか。これはこの町の民を迫出すために、あなた方が企んだ共謀に違いない。だがあなた方は、それに対する罰や苦労といった、その結果についてすぐに思い知るだろう。

①24 わたしはあなた方の右手と左足、あるいは左手と右足を互い違いに切断し、さらに1人残らずナツメヤシの木にはりつけよう。そうすれば人々はそれを見て、恐れおののくであろう。

①25 魔術師たちは言った。結局わたしたちは主の元に帰る。だからあなたの恐喝は、怖くないのだ。

①26 あなたは、主の印がムーサーを通して届くと、わたしたちがそれらを信じるというだけで復讐しようとする。もしそれが罰せられるべき罪であるならば、それはわれわれの罪である。そう言っただけでは、畏れつつアッラーへの祈りに向かった。主よ、わたしたちに忍耐を与え、真実を確固たるものとして、それに埋没させてください。われわれをムスリムとして死なせてください。あなたの命に従い、あなたの預言者に従う者として。

①27 フィルアウンの民の指導者たちは、ムーサーとその従者たちを何とか始末しようとして願って言った。あなたはムーサーとその従者たちが地上で腐敗を広げ、あなたとあなたの神々を捨てて、アッラーだけを祈ることを勧めるのを放っておくか。フィルアウンは言った。わたしたちは、イスラエルの男児を殺して、女兒を奴隷として生かしてお

くことにする。わたしたちは、かれらを力と支配と権威で圧倒するのだ。

①28 ムーサーはその民に助言して、言った。アッラーの助けを祈り、害を避け、益を得るには、試練を耐え忍べ。本当に大地はアッラーのもので、フィルアウンらのものではない。アッラーは御心にあった人々にこれを継がせる。しかし最後の良い結果は、アッラーの命令に従い、禁止されたことは避ける人たちにあるのだ。それは受ける試練にも拘らず、そうなのである。

①29 イスラエルの子孫たちは、ムーサー(平安を)に対して言った。わたしたちは、あなたが来る前も来た後も、男児を殺され女児は生かしたままにされ、迫害を受けてきた。かれは助言として、試練から逃れるという望みを持つように言った。おそらくアッラーは、あなた方の敵を滅ぼし、あなた方をこの地上の後継者とし、その後、感謝するのか不信仰になるのかなど、どのようにあなた方が行なうかをご覧になるだろう。

①30 われらはフィルアウンの一族が戒めを受け入れるように、果物も穀物も含めて長年の飢饉と不作で懲らしめた。かれらがそれで反省し、不信仰に対するアッラーからの懲らしめだと気が付いて、いずれ悔悟するためであった。

#### 本諸節の功徳:

●魔術師たちが信仰を素直に持つこととなったということは、人はあらぬ欲望を捨てれば理性的となり、印に気が付いて信仰に入れることを示している。

●アッラーと最後の日を信じる者は、一番決意が固いのだ。かれらこそは、危機、試練、戦いの際も、最も勇気と忍耐力がある。

●権力にすぎる人たちは、信者に対して権力を挑発し扇動する。それは権力の継続に、かれらの最良の利益が潜んでいるからだ。

●不正と腐敗は、降雨量の減少や、物価高騰の原因ともなる。

فَإِذَا جَاءَتْهُمْ الْحَسَنَةُ قَالُوا لَنَا هَذِهِ وَإِنْ تُصِبْهُمْ سَيِّئَةٌ يَطَّيَّرُوا بِمُوسَىٰ وَمَنْ مَعَهُ ۗ وَالْآلِئِمَّا طَّيَّرَهُمْ عِنْدَ اللَّهِ وَلَكِنَّ أَكْثَرَهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿١٣١﴾ وَقَالُوا لَوْ مَا تَأْتِيَنَاهُ مِنْ آيَةٍ لِنَسْحَرَنَّ بِهَا فَمَا نَحْنُ لَكَ بِمُؤْمِنِينَ ﴿١٣٢﴾ فَأَرْسَلْنَا عَلَيْهِمُ الطُّوفَانَ وَالْجَرَادَ وَالْقُمَّلَ وَالضَّفَادِعَ وَالْدَّمَ ۗ آيَاتٍ مُفَصَّلَاتٍ فَاسْتَكْبَرُوا وَكَانُوا قَوْمًا مُّجْرِمِينَ ﴿١٣٣﴾ وَلَمَّا وَقَعَ عَلَيْهِمُ الرِّجْزُ قَالُوا لَوْ أَنَّمُوسَىٰ أَدْعُ لِنَارِ رَبِّكَ بِمَا عَاهَدَ عَلَيْكَ لَئِن كَشَفْتَنَا مِنَ الرِّجْزِ لَنُؤْمِنَنَّ لَكَ وَلَنُرْسِلَنَّ مَعَكَ بَنِي إِسْرَائِيلَ ﴿١٣٤﴾ فَلَمَّا كَشَفْنَا عَنْهُمْ الرِّجْزَ إِلَىٰ أَجَلٍ هُمْ بَلِغُوهُ إِذَا هُمْ يَنْكُثُونَ ﴿١٣٥﴾ فَانْتَقَمْنَا مِنْهُمْ فَأَغْرَقْنَاهُمْ فِي الْيَمِّ بِأَنَّهُمْ كَذَّبُوا بِآيَاتِنَا وَكَانُوا عَنْهَا غَافِلِينَ ﴿١٣٦﴾ وَأَوْرَثْنَا الْقَوْمَ الَّذِينَ كَانُوا يُسْتَضْعَفُونَ مَشْرِقَ الْأَرْضِ وَمغربَهَا ۗ أَلَيْسَ الَّذِي بَدَعْنَاهُ أَلَدًا كَلِمَاتٍ رَبِّكَ الْحُسْنَىٰ عَلَىٰ بَنِي إِسْرَائِيلَ بِمَا صَبَرُوا وَدَمَّرْنَا مَا كَانَ يَصْنَعُ فِرْعَوْنُ وَقَوْمُهُ وَمَا كَانُوا يَعْرِشُونَ ﴿١٣٧﴾

131 フィルアウンの一族に、豊かさ、収穫、繁盛など良いことがあれば、これはわたしたちの成果であり、わたしたちのものだと言いはった。しかし不作の飢饉、疫病など悪いことがあれば、ムーサー(平安を)とかれと共にいるイスラエルの子孫による悪運だとした。真実は、かれらの悪運はすべて、賛美されるアッラーの定めから来ているのであって、ムーサーたちのためではない。ムーサーが関係しているのは、かれらのために悪運を祈ったことだけである。かれらの多くは理解していないで、アッラーの命令以外のものせいにする。

132 フィルアウンの一族はムーサー(平安を)に、真実を拒否して言った。あなたがどんな印や証拠を持ってきて、またどんな論拠を持ってきて、われわれが過っていて、自分が正しいと言い張っても、われわれはあなたを信じないのだ。

133 そこでわれらはかれらにその虚偽と執拗さに対する罰として、洪水を送って作物や果実を沈めた。またイナゴで、その収穫物を食べ尽くさせた。また、シラミも送った。カエルでかれらの器を満たし、食べ物をダメにし、寝床を騒がせた。また血を送り、井戸や川をその色で染めた。それらすべては、われらが明瞭な印として、次々に送ったものであった。ところがこれらの苦痛にも拘らず、かれらはアッラーに従うにはあまりに傲慢で、ムーサー(平安を)のもたらしたのものにも従わなかった。かれらは背信の民で、虚偽を排除せず、真実に導かれぬ人々であった。

134 懲罰がかれらに降りかかると、かれらは言った。ムーサー(平安を)よ、主に対してこの懲罰をなくすようお願いしてくれ。あなたは預言者なのだし、主に従うならば苦痛をなくしてくれると、アッラーはあなたに約束したのだから。もしあなたがわたしたちからこの苦痛を除けば、わたしたちはあなたを信じ、イスラエルの子孫をあなたと一緒に釈放するだろう。

135 でもアッラーがかれらから懲罰を除いて、一定の猶予期間を与えると、かれらはかれらの約束を破り、溺死の罰のときまで不信仰を続けた。かれらはムーサーを信じず、イスラエルの子孫をムーサー(平安を)と一緒に解放することはなかった。

136 それでかれらの破滅のときが来た時に、われは懲罰として、かれらを海に溺れさせた。かれらがアッラーの印を拒否し、疑いのない真実に背いたからであった。

137 それからわれらは、フィルアウンとその民に虐げられていたイスラエルの子孫を、アッラーが祝福した東西の大地における後継者とした。それは大シリア地方のことである。そこには最良の穀物と果実が実っている。こうしてあなたの主の最善の言葉は、現実のものとなった。「われは、この国で虐げられている者たちに恩恵を与えたいと思い、かれらを(信仰の)指導者となし、(この国の)後継ぎにしたいのだ。」(物語章:5)フィルアウンとその民の迫害にイスラエルの子孫がよく耐え忍んだことにより、その土地での支配を達成させた。一方、フィルアウンとその民が造り築き上げてきた田畑や住居、そして宮殿などは壊滅させたのだった。

本諸節の功德:

- 善も悪も、善事も悪行も、アッラーの定め次第であり、それ以外にはないのである。
- 試練や苦難の際に人がするのは、天性の信仰に従って、アッラーに祈りを捧げることである。
- 信者は、アッラーの創造に際しての印や慣行を熟慮し、その諸原因や諸々の結果を考慮するのがよい。
- 個人や国家の力は、アッラーの力の前では霧散する。そしてアッラーへの信仰が、すべての力の源泉である。
- 至高なるアッラーは褒美として、苦しめられた後には、信者に対してその忍耐に鑑みて、地上で力量を授けられる。

وَجَوَزْنَا بِبَنِي إِسْرَائِيلَ الْبَحْرَ فَأَتَوْا عَلَى قَوْمٍ يَعْكُفُونَ  
عَلَىٰ أَصْنَامِهِمْ لَّهُمْ قَالُوا يُمُوسَىٰ اجْعَلْ لَنَا آلِهًا كَمَا  
لَهُمْ آلِهَةٌ ۗ قَالَ إِنَّكُمْ قَوْمٌ تَجْهَلُونَ ﴿١٣٨﴾ إِنْ هَؤُلَاءِ مَتَّبِعُوا  
مَا هُمْ فِيهِ وَبَطِلُ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿١٣٩﴾ قَالَ أَغَيْرَ اللَّهِ  
أَبْغِيكُمْ إِلِهَاتٍ ۗ هُوَ فَضَّلَكُمْ عَلَى الْعَالَمِينَ ﴿١٤٠﴾ وَإِذْ أَنْجَيْنَاكُمْ  
مِّنَ آلِ فِرْعَوْنَ يَسُومُونَكُمْ سُوءَ الْعَذَابِ يُقْتَتِلُونَ  
أَبْنَاءَكُمْ وَيَسْتَحْيُونَ نِسَاءَكُمْ ۗ فِي ذَٰلِكُمْ بَلَاءٌ  
مِّن رَّبِّكُمْ عَظِيمٌ ﴿١٤١﴾ ۖ وَوَعَدْنَا مُوسَىٰ ثَلَاثِينَ لَيْلَةً  
وَأَتَمَّمْنَاهَا بِعَشْرِ فِتْنَةٍ مِّمَّا قَتَلَ رَبِّي ۗ أَرْبَعِينَ لَيْلَةً وَقَالَ  
مُوسَىٰ لِأَخِيهِ هَارُونَ أَخْلِفْنِي فِي قَوْمِي وَأَصْلِحْ وَلَا تَتَّبِعْ  
سَبِيلَ الْمُفْسِدِينَ ﴿١٤٢﴾ وَلَمَّا جَاءَ مُوسَىٰ لِمِيقَاتِنَا وَكَلَّمَهُ  
رَبُّهُ وَقَالَ رَبِّ أَرِنِي ۗ أَنْظُرْ إِلَيْكَ ۗ قَالَ لَن تَرِنِي وَلَكِن  
أَنْظُرْ إِلَى الْجَبَلِ فَإِنِ اسْتَقَرَّ مَكَانَهُ فَسَوْفَ تَرَاهُ ۗ فَلَمَّا  
بَحَّجَّ رَبُّهُ وَلِلْجَبَلِ جَعَلَهُ دَكًّا وَخَرَّ مُوسَىٰ صَبَقًا ۗ فَلَمَّا  
أَفَاقَ قَالَ سُبْحٰنَكَ بُنْتِ الْإِيكِ وَأَنَا أَوَّلُ الْمُؤْمِنِينَ ﴿١٤٣﴾

⑬③⑧ われらはムーサーが杖で海を割って、イスラエールの子孫に海を渡らせた。するとかれらは偶像に仕えている民のところに行って来て、言った。ムーサー(平安を)よ、かれらが持っている神々のような神を、わたしたちのためにも造ってくれないか。かれは言った。実にあなた方は、無知の民だ。アッラーだけを礼拝し、その偉大さを称えるべきだ。かれに同列に並置し、それを崇拜することは全く不適当だ。

⑬③⑨ 実にこれらの偶像崇拜をしている人々は、確かに滅びるだろう。かれらがしてきたことは間違いで、無意味だ。かれらはアッラー以外を崇めているのだから。

⑬④① ムーサーは言った。アッラーという唯一にして真実の神の他に、わたしがあなた方のために神を造るのか。あなた方は、偉大な印を見てきたし、アッラーはあなた方を他の誰よりも優遇されたのに。あなた方の敵を滅ぼし、あなた方をこの国で後継者とし支配者とされたというのに。

⑬④② イスラエールの子孫よ、われらがフィルアウンの一族から、あなた方を救ったときを思い出せ。かれらはあなた方をひどい辱めと苦痛で悩まし、あなた方の男児を殺し、女兒を生かしておいた。実にその中には、あなたの主からの感謝すべき偉大な試練があったのだ。

⑬④③ またわれらはムーサーと話すために30夜を定め、さらに10夜追加して完成した。だからかれの主の定めた期間は、40夜で完了した。ムーサーは兄弟のハールーンに言った。自分が主と話すために不在中、人々の間でわたしの代理をせよ、そして正しい政策と優しさでかれらを統率し、謀反を起して腐敗を広める人の道に従わず、背信をしないで、反徒どもを助けないように。

⑬④④ ムーサー(平安を)がわれらとの約束通り来ると、主はかれに40夜、命令や禁止事項について語りかけた。ムー

サーは主の尊顔を拜見したくなったので、こう言った。主よ、御姿を現したまえ。そしてわたしにあなたを拝顔させたまえ。至高なるアッラーは言われた。あなたは決してわれを見ることはできない。だがあの山を見よ。もしわれが姿を現した時、それがその場所にしっかりあれば、あなたはそこにわれを見るだろう。しかしもしそれが砕かれていたならば、現世で見ることはないのだ。しかしかれの主はその山に姿を現わして山を粉みじんにしたので、ムーサーは意識を失い倒れた。そして意識が回復すると、かれは言った。あなたは完璧で、どのような欠陥もない。現世で見たいなどと言ったことを赦したまえ。実にわたしは一族の中でも、あなたを信仰する者の先駆けである。

#### 本節の功德:

- イスラエールの子孫たちは、かれらの間にアッラーの預言者ムーサーがいたにも関わらず、次々と間違いを犯してしまったことが、これらの出来事から判明する。
- 人々が恥ずべきことは、醜悪を善事と思い、善事を醜悪とってしまうことだ。それはかれらの誤った見解と欲望のためである。
- 社会を正し、腐敗の扉を閉じることは、預言者と唱道者の崇高な目標である。
- 現世において、被造者が創造主を見ることはない。それはアッラーの定めである。来世においてアッラーのお望みにより、見ことを許されるかも知れない。

قَالَ يَمْؤِسِي إِلَىٰ أَصْطَفَيْتِكَ عَلَى النَّاسِ بِرِسَالَتِي وَبِكَلِمِي  
 فَخَذَ مَاءً أَتَيْتُكَ وَكُن مِّنَ الشَّاكِرِينَ ﴿١٤٤﴾ وَكَتَبْنَا  
 لَهُ فِي الْأَلْوَابِ مِنْ كُلِّ شَيْءٍ مَّوْعِظَةً وَتَفْصِيلًا لِّكُلِّ  
 شَيْءٍ فَخَذَهَا يَبْغُوتُ وَأَمْرَ قَوْمِكَ يَا خُذُوا بِأَحْسَنِهَا سَأُوْرِيكُمْ  
 دَارَ الْفَلْسِيقِينَ ﴿١٤٥﴾ سَأَصْرَفُ عَنْ آيَاتِي الَّذِينَ يَتَكَبَّرُونَ  
 فِي الْأَرْضِ بِغَيْرِ الْحَقِّ وَإِن يَرَوْا كَلِمًا آيَةً لَا يُؤْمِنُوا بِهَا  
 وَإِن يَرَوْا سَبِيلَ الرُّشْدِ لَا يَتَّخِذُوهُ سَبِيلًا وَإِن يَرَوْا سَبِيلَ  
 الْعُغْيِ يَتَّخِذُوهُ سَبِيلًا ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ كَذَّبُوا بِآيَاتِنَا  
 وَكَانُوا عَنْهَا غَافِلِينَ ﴿١٤٦﴾ وَالَّذِينَ كَذَّبُوا بِآيَاتِنَا  
 وَلِقَاءِ الْآخِرَةِ حَبِطَتْ أَعْمَالُهُمْ هَلْ يُجْزَوْنَ إِلَّا مَا كَانُوا  
 يَعْمَلُونَ ﴿١٤٧﴾ وَاتَّخَذَ قَوْمُ مُوسَىٰ مِن بَعْدِهِ مِن حُلِيِّهِمْ  
 عِجَلًا جَسَدًا لَّهُ وَحُورًا أَلْمَيَرُوا أَنَّهُ لَا إِلَهَ إِلَّا هُمْ  
 وَلَا يَهْدِيهِمْ سَبِيلًا اتَّخَذُوهُ وَكَانُوا ظَالِمِينَ ﴿١٤٨﴾  
 وَلَمَّا سَقَطَ فِي أَيْدِيهِمْ وَرَأَوْا أَنَّهُمْ قَدَّ ضَلُّوا قَالُوا لَئِن  
 لَّمْ يَرِحْنَا رَبَّنَا وَيَغْفِرْ لَنَا لَنَكُونَنَّ مِنَ الْخَاسِرِينَ ﴿١٤٩﴾

144 アッラーは言われた。ムーサーよ、われらは啓示と直接の話しかけによって、あなたを万人の上を選んだ。だからわれらが授けた偉大な名誉を忘れずに、感謝する者の1人となりなさい。

145 またわれらはムーサーのために、現世と来世に必要なすべてのことに関する戒めと解釈とを、書き記した。そして言った。この律法を真剣にかつ精一杯しっかり守れ。またイスラエルの子孫たちであるあなたの人々に、その中の最も優れたものを守るよう命じよ。そうすれば、完璧に最善の命令に従うことや忍耐と赦しの心を持ってすることで、最大の報奨が得られるのだ。われはムーサーに対して、命令に反する人たちの行き着く先を示し、その結果かれらが受ける破滅と破壊を明らかにする。

146 アッラーの僕や真実に対して不当に高慢である人々は、遥かな水平線であれ自分自身の中であれ、目にする印について考え、その言葉が明瞭でも理解することが遠ざけられる。啓示から背き去り、それを信じることができない。アッラーとその使徒に背くからである。アッラーの喜ばれる真実への道を見ても、それに従わず、それを好まない。逆にアッラーが嫌われる歪んだ誤道を見ると、それに従う。それはかれらが、預言者が持って来た真実を証明するアッラーの印と言葉を拒否するからで、またかれらはそれに注意を払わないのだ。

147 われらの預言者たちに託した印と来世における面会を虚偽であるとした人々の行ないは、服従の行為としては無意味となる。信仰という条件が満たされない事情により、応報もない。不信仰と、アッラーに同列に配置したといった自分の行なってきたこと以外のことで、かれらが応報されることはなく、それは地獄の火に他ならない。

148 ムーサーの民は、かれがアッラーとの話のために去った後、自分たちの装飾品を使って、魂はないが鳴き声の出る子牛の像を造った。かれらにはそれがものを言わず、また感覚的にも抽象的にも善への道案内もできないことが分らなかつたのか。益もなく、損害を防いでくれないのだ。それを崇拜対象として、それによって自らに不正を働いていたのだ。

149 かれらは後悔し、迷い、アッラーと並んで子牛を崇拜したことで過ちの道に反れたことに気づいて、嘆願して言った。もしわたしたちの主が慈悲を与えず、また子牛崇拜のことを赦さなかつたならば、わたしたちは間違いなく現世と来世の失敗者の仲間になつただろう。

**本諸節の功德:**

- アッラーの恩寵と寵愛に対して感謝の念を持つのは僕の義務であるが、感謝はそれらを増加させる。
- 言動において信者は、最善を尽くすべきだ。
- 決意と真剣さと決心を持ってアッラーに帰依し、その法規(シャリーア)に従い、そこにあるような正しさと改革及び腐敗の防護を実行すべきである。
- 僕が主の権利に対して過ちを犯し、実行が不足気味であるなら、その罪の重大さをまず認めるべきだ。そしてその懲罰を回避するのは、アッラーを通じてしかありえない。

وَلَمَّا رَجَعَ مُوسَىٰ إِلَىٰ قَوْمِهِ غَضْبَانَ أَسِفًا قَالَ بِسْمَا خَلَفْتُمُونِي  
 مِنْ بَعْدِي أَتَجَلَّتُمْ أَمْرَ رَبِّكُمْ وَأَلْقَى الْأُلُوحَ وَأَخَذَ بِرَأْسِ  
 أَخِيهِ يُجْرَهُ إِلَيْهِ قَالَ ابْنَ أُمَّ إِنَّ الْقَوْمَ اسْتَضَعَفُونِي وَكَادُوا  
 يَقْتُلُونِي فَلَا تُشْمِتْ بِيَ الْأَعْدَاءَ وَلَا تَجْعَلْنِي مَعَ الْقَوْمِ  
 الظَّالِمِينَ ﴿١٥٦﴾ قَالَ رَبِّ اغْفِرْ لِي وَلِإخِي وَأَدْخِلْنَا فِي رَحْمَتِكَ  
 وَأَنْتَ أَرْحَمُ الرَّاحِمِينَ ﴿١٥٧﴾ إِنَّ الَّذِينَ أَخَذُوا الْعِجْلَ سَبَيْنَا لَهُمْ  
 غَضَبٌ مِّن رَّبِّهِمْ وَذَلَّةٌ فِي الْحَيَاةِ الدُّنْيَا وَكَذَلِكَ نَجْزِي  
 الْمُفْتَرِينَ ﴿١٥٨﴾ وَالَّذِينَ عَمِلُوا السَّيِّئَاتِ ثُمَّ تَابُوا مِن  
 بَعْدِهَا وَآمَنُوا إِنَّ رَبَّكَ مِن بَعْدِهَا لَغَفُورٌ رَّحِيمٌ ﴿١٥٩﴾  
 وَلَمَّا سَكَتَ عَن مُّوسَى الْغَضَبُ أَخَذَ الْأُلُوحَ وَفِي سَخَرَتِهَا  
 هُدًى وَرَحْمَةٌ لِّلَّذِينَ هُمْ لِرَبِّهِمْ يَرْتَدُّونَ ﴿١٦٠﴾ وَأَخْتَارَ مُوسَىٰ  
 قَوْمَهُ سَبْعِينَ رَجُلًا لِّمِيقَاتِنَا فَلَمَّا أَخَذَتْهُمُ الرَّجْفَةُ قَالَ  
 رَبِّ لَوْ شِئْتَ أَهْلَكْتَهُم مِّن قَبْلِ وَيْلَى أَتَهْلِكُنَا بِمَا فَعَلَ  
 السَّفَهَاءُ مِنَّا إِنَّ هِيَ إِلَّا أَوْتِنْتَنَّاكَ نَفْلُ بِيهَا مَن تَشَاءُ وَنَهَدِي  
 مَن تَشَاءُ أَنْتَ وَلِيْنَا فَاعْفِرْ لَنَا وَارْحَمْنَا وَأَنْتَ خَيْرُ الْعَافِينَ ﴿١٦١﴾

①50 ムーサーが主との面会からその民のところに戻って、子牛崇拝をしているのを見たとき、すっかり怒り悲しんで言った。わたしの去った後、あなた方がここでしたことは、何と悪質なことか。それは破滅と悲慘さに導くだけだ。あなた方はわたしを待つのにうんざりして、子牛を拝み始めたのか。かれは石版を投げ、怒りと悲しみに溢れて、かれの兄弟ハールーンの頭と髭を掴んで、引っ張った。かれが人々と一緒にいても、子牛崇拝を阻止できなかったからだ。ハールーンは、ムーサーに情けを請うて言った。わたしの母の子よ、この民はわたしを弱いと見て、敬意も払わずに、もう少してわたしを殺すところだった。だからわたしと対立することで、敵を喜ばせてはいけない。そしてわたしを、怒りの余りアッラー以外を奉る不正の民と一緒に見なさないでほしい。

①51 ムーサーはアッラーに嘆願して言った。主よ、わたしとわたしの兄弟ハールーンを赦し、あなたの慈悲で覆って、その中に入れてください。あなたは慈悲ある者の中で、最も慈悲深い方です。

①52 疑いなく、子牛を崇拝した人たちには、主から怒りが届き、現世の生活においても屈辱があるだろう。主の不興を買い、その命令に反したからだ。このようにアッラーは、嘘を捏造する人々に報いるのである。

①53 しかしアッラーに並置して背信で罪を犯しても、その後アッラーのみへの信仰に悔い改め、背信を改めるならば、このような悔悟と多神崇拝の放棄、そして背信から帰依に戻った後では、あなたの主は過ちを消去しやり過ぎて、実によく赦される方であり、慈悲深い方である。

①54 ムーサー(平安を)は怒りが静まると、怒って投げつけた石版を取り上げた。その中には、かれらの主を畏怖して主の結果を恐れる人たちにに向けて、過ちからの導きと真実の説明、そして慈悲が記されていた。

①55 ムーサーは、間違った人々が子牛崇拝を犯したので、最良の70名を選抜して、お赦しを請うこととした。アッラーはかれらに時間と場所を定めたが、そこに到達するとかれらはいい気になり、ムーサーに対して、アッラーを見られるようにしてほしいと懇請した。そこで大地震がかれらを襲って、かれらは倒れて、その力で息の根が止まってしまった。ムーサーは、主に言った。主よ、あなたが望みならば、以前にすでにかれらとわたしを滅ぼしていたでしょう。あなたはわたしたちの中の愚かな者が犯したことのために、わたしたち全員を滅ぼすのですか。しかし子牛を崇拝したというのは、あなたのわたしたちへの試練に他なりません。だからそれにより、あなたは御心の人を迷わせ、また御心の人を導く。あなたはわたしたちの擁護者ですから、わたしたちの罪を赦し、わたしたちに大いなる慈悲を与えてください。あなたは、最もよく赦し大目に見る方なのですから。

#### 本諸節の功德:

- これらの諸節の中には、明らかな論拠があるにも関わらず、法的見解の導出を誤った場合、それに基づいて行った者は正当化できないことの証拠がある。これは法学者たちが「乖離した解釈」と呼んでいるものである。
- 祈願は自分のことから始めるのが、礼儀である。ムーサー(平安を)はかれが怒りを露わにしたことについて、アッラーへの敬意から自分の赦しのために祈り始めた。それから、かれの兄弟であるハールーンについて、かれが人々の子牛崇拝に対して、それを無視あるいは不注意のために阻止できなかったことを赦してほしいとした。
- 怒りのあまり、理性を失ってしまうことは、要注意である。怒りは静めておかなければ、命令と禁止の主導権を与えてしまうことになる。
- アッラーの怒りを回避して、その力を恐れることは必要である。ムーサー(平安を)の主に対する立場を見てみよう。主の怒りに、どれほどかれは、恐れていたことか。



\* وَكَتُبْنَا فِي هَذِهِ الدُّنْيَا حَسَنَةً وَفِي الْآخِرَةِ  
 إِنَّا هُدُنَا إِلَيْكَ قَالَ عَذَابِي أُصِيبُ بِهِ مَنْ أَشَاءُ وَرَحْمَتِي  
 وَسِعَتْ كُلَّ شَيْءٍ فَسَأَكْتُبُهَا لِلَّذِينَ يَتَّقُونَ وَيُؤْتُونَ  
 الزَّكَاةَ وَالَّذِينَ هُمْ بِعَاقِبَتِنَا يُوْمِنُونَ ﴿١٥٦﴾ الَّذِينَ يَتَّبِعُونَ  
 الرَّسُولَ النَّبِيَّ الْأُمِّيَّ الَّذِي يَجِدُونَهُ مَكْتُوبًا عِنْدَهُمْ  
 فِي التَّوْرَةِ وَالْإِنْجِيلِ يَأْمُرُهُمْ بِالْمَعْرُوفِ وَيَنْهَاهُمْ  
 عَنِ الْمُنْكَرِ وَيُحِلُّ لَهُمُ الطَّيِّبَاتِ وَيُحَرِّمُ عَلَيْهِمُ  
 الْخَبَائِثَ وَيَضَعُ عَنْهُمْ إِصْرَهُمْ وَالْأَغْلَالَ الَّتِي كَانَتْ  
 عَلَيْهِمْ فَاَلَّذِينَ ءَامَنُوا بِهِ وَعَزَّرُوهُ وَنَصَرُوهُ وَاتَّبَعُوا  
 النُّورَ الَّذِي أُنزِلَ مَعَهُ ءَأُولَئِكَ هُمُ الْمُفْلِحُونَ ﴿١٥٧﴾  
 قُلْ يَا أَيُّهَا النَّاسُ إِنِّي رَسُولُ اللَّهِ إِلَيْكُمْ جَمِيعًا الَّذِي  
 لَهُ مُلْكُ السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ يُحْيِي وَيُمِيتُ  
 فَأَمِنُوا بِاللَّهِ وَرَسُولِهِ النَّبِيِّ الْأُمِّيِّ الَّذِي يُؤْمِنُ بِاللَّهِ  
 وَكَلِمَاتِهِ وَاتَّبِعُوهُ لَعَلَّكُمْ تَهْتَدُونَ ﴿١٥٨﴾ وَمِنَ  
 قَوْمِ مُوسَى أُمَّةٌ يَهْدُونَ بِالْحَقِّ وَبِهِ يَعْدِلُونَ ﴿١٥٩﴾

①56 またわたしたちに恩寵と健康を授け、正しい行いをす  
 るようにされた人々の仲間に入れて下さい。来世に樂園  
 を準備された、正しい僕たちの仲間に入れてください。本  
 当にわたしたちは、過ちを認めてあなたに帰る。至高なる  
 アッラーは言った。われは望みのままの人を、苦痛で悩  
 ます。またわれの慈悲は、この世のすべてのものに及ぶ。  
 アッラーの慈悲が及ばないで、その寵愛と善慮が覆わな  
 いものはないのだ。だからアッラーを畏れ命令を守り禁  
 止を避ける人たち、定めぬ施しをそれに値する人たちに  
 与える人たち、われらの印を信じる人たちに、慈悲を書  
 き記すのである。

①57 かれらは文字を知らない預言者で、使徒である人、ム  
 ハンマド(アッラーの祝福と平安を)に追従する人々であ  
 る。かれは主から啓示を授けられるだけだ。またかれは  
 ムーサー(平安を)に下された律法とイーサー(平安を)  
 に下された福音の中に、その名前と特性、預言者性が記  
 されて、そこに見出される人である。かれは善で正しい  
 ことをかれらに命じ、正しくない理性と天性にある醜悪な  
 ものをかれらに禁じる。またかれらに食物、飲料、性交な  
 ど善いものを合法(ハラール)とし、醜悪なものを禁忌(ハ  
 ラーム)とする。こうすることで、汚れた箇所は切り取ら  
 なければならないとか、意図的であろうがそうでなかろう  
 が、殺人者は殺さねばならないなど、以前は義務とされ  
 ていたかれらの重荷のような困難な命令を除かれるの  
 だ。だからかれを信じるイスラエールの子孫など、かれ  
 を尊敬し、かれを助けて、反対する不信仰者に対抗して  
 手助けし、かれに御光として下されたクルアーンに従う  
 人々は、成功する人々なのである。かれらは望むものを得  
 て、恐れるものを回避できる。

①58 ムハンマド(アッラーの祝福と平安あれ)よ、言え。人々  
 よ、わたしはアラブであれそうでなかれ、あなた方全人  
 類のための、アッラーの使徒である。かれに諸天と地の  
 大権はある。かれの他に祈るべき神(賛美あれ)はなく、  
 かれは生を授け、死を与える方である。だからアッラー  
 と、かれの使徒でありアッラーとかれの言葉(クルアーン)を  
 信じているが文字を知らない預言者(ムハンマド)を信じよ。

ムハンマドは、かれ以前の預言者たちに主から下された啓示も信じている。そしてかれが主からもたらしたものに従えば、現世と来世であな  
 た方に益をもたらすものに導かれるだろう。イスラエールの子孫による子牛崇拜について述べられた後、子牛を崇拜したような  
 人々ではないイスラエールの子孫たちもいるということについて、アッラーは次のように言う。

①59 ムーサーの民でイスラエールの子孫の中には、真理に人々を導き、またそれによって正義を行なう一団がいるのだ。

**本諸節の功德:**

- 律法と福音書には預言者ムハンマド(アッラーの祝福と平安を)の到来とかれのもたらすものが真実であることを明らかに示す証拠がある。
- アッラーの慈悲はあらゆるものをカバーする。しかし僕への慈悲には段階や差異がある。信仰と正しい行為によるのである。
- 場合によって、祈りは一般的であり、時に特定される。ムーサーのこの場合の祈りは一般的であった。
- 至高なるアッラーの公正であることは、信仰する少数派に言及することに現れている。導きに反するイスラエールの子孫の特性に言及する中で、それは全員のことかと勘違いしないために、その中には正しく導き、導かれている一団もあることが示されている。

وَقَطَعْنَاهُمْ اثْنَتَيْ عَشْرَةَ أَسْبَاطًا أُمَمًا وَأَوْحَيْنَا إِلَىٰ  
 مُوسَىٰ إِذِ اسْتَسْقَاهُ قَوْمُهُ أَنِ اضْرِبْ بِعَصَاكَ الْحَجَرَ  
 فَانْبَجَسَتْ مِنْهُ اثْنَتَا عَشْرَةَ عَيْنًا قَدْ عَلِمَ كُلُّ أُنَاسٍ  
 مَشْرَبَهُمْ وَظَلَّلْنَا عَلَيْهِمُ الْغَمَمَ وَأَنْزَلْنَا عَلَيْهِمُ  
 الْمَنَّاءَ وَالسَّلْوَىٰ كُلًّا مِنْ طَيِّبَاتِ مَا رَزَقْنَاكُمْ وَمَا  
 ظَلَمُونَا وَلَكِنْ كَانُوا أَنْفُسَهُمْ يَظْلِمُونَ ﴿١٦٦﴾  
 وَإِذْ قِيلَ لَهُمُ اسْكُنُوا هَذِهِ الْقَرْيَةَ وَكُلُوا مِنْهَا  
 حَيْثُ شِئْتُمْ وَفُولُوا حِطَّةً وَادْخُلُوا الْبَابَ سُجَّدًا  
 نَعْفِرْ لَكُمْ خَطِيئَتَكُمْ سَنَزِيدُ الْمُحْسِنِينَ ﴿١٦٧﴾  
 فَبَدَّلَ الَّذِينَ ظَلَمُوا مِنْهُمْ قَوْلًا غَيْرَ الَّذِي قِيلَ  
 لَهُمْ فَأَرْسَلْنَا عَلَيْهِمْ رِجْزًا مِنْ السَّمَاءِ بِمَا كَانُوا  
 يَظْلِمُونَ ﴿١٦٨﴾ وَسَأَلَهُمْ عَنِ الْقَرْيَةِ الَّتِي كَانَتْ  
 حَاضِرَةَ الْبَحْرِ إِذْ يَعْدُونَ فِي السَّبْتِ إِذ تَأْتِيهِمْ  
 حِيَّتَانِ يَوْمَ سَبْتِهِمْ شُرَّعًا وَيَوْمَ لَا يَسْئُونَ لَأَن تَأْتِيَهُمْ  
 كَذَلِكَ يَبْلُوهُمْ بِمَا كَانُوا يَفْسُقُونَ ﴿١٦٩﴾

①66 われらはかれらを共同体として、12支族に分けた。そしてムーサーの民が水を求めたとき、われらはムーサーに啓示した。あなたの杖で岩を打て。するとそこから12の泉が湧き出て、全員自分の水場を知った。またわれらはかれらと共に رفتり来たりする雲であなた方の頭上に陰を創り、蜜のように甘い飲料と肉のうまいウズラのような小さい鳥を与えた。われらが与えた良きものを食べよ。かれらは不正や、恵みに感謝せず、また正当に評価しないことで、われらを損なったのではなく、自分自身を悪に陥れたのだ。かれらは、アッラーの命令に従わず、その恵みをありがたく思わないで、破滅の原因を生み出したのだ。

①67 預言者よ、アッラーはイスラエルの子孫にこう命じられた。このエルサレムの町に入り、いつでもいいから、あなた方の好きなようにその果実を食べよ。そして過ちを帳消しにして下さいと言い、頭を低くして門に入れ。そうすればわれらはあなた方の過ちを赦し、また善行の人たちには、現世と来世の報酬を増加するだろう。

①68 ところがかれらの間で不正を行なう人々は、命じられた言葉を変更してしまった。そして赦しを請うのではなく、「大麦の種を」と言うのであった。また言われたようにアッラーに対して低い姿勢で入るのではなく、尻を引きずりながらふんぞり返って入るといった始末。このように不正を繰り返してきたので、かれらの上にわれらは天から災厄を下したのだ。

①69 預言者よ、とある海岸の町を巡って、ユダヤ人たちの祖先にアッラーが下された懲罰に関して、イスラエルの子孫に問いなさい。かれらが漁業禁止の安息日に背いたときのこと。アッラーの命により、魚はかれらの安息日に水面に現われたが、かれらが安息しない日(平日)には、それらはやって来なくなった。このようにわれらがかれらを試みるのは、かれらがわれらに背いてきたためである。結局かれらは網を張って穴も設け、罟を仕掛けて、そこに土曜日に魚が入るようにし、日曜日にそれを取って食べることにした。

#### 本諸節の功德:

- 拒否と不信仰は、恵みを除去する原因である。
- イスラームの法規範をずるをして免れることは、懲罰と苦痛の原因となる。それは悪行であり、アッラーの定めを破ることになるから。
- イスラエルの民には、アッラーは蔑みと貧困を命じられた。その不正と逸脱によりアッラーは、かれらを復活の日まで懲罰する人を送られる。

وَأَذَقَتْ أُمَّةٌ مِّنْهُمْ لِمَ تَعِظُونَ قَوْمًا اللَّهُ مُهْلِكُهُمْ أَوْ مُعَدِّبُهُمْ  
 عَذَابًا شَدِيدًا قَالُوا مَعذِرَةٌ إِلَىٰ رَبِّكُمْ وَعَلَاهُمْ يَتَّقُونَ ﴿١٦٤﴾  
 فَلَمَّا نَسُوا مَا ذُكِّرُوا بِهِ أَنجَيْنَا الَّذِينَ يَنْهَوْنَ عَنِ السُّوءِ  
 وَأَخَذْنَا الَّذِينَ ظَلَمُوا بِعَدَابِ بَيْسٍ بِمَا كَانُوا يَفْسُقُونَ ﴿١٦٥﴾  
 فَلَمَّا عَتَوْا عَن مَّا نُهُوا عَنْهُ قُلْنَا لَهُمْ كُونُوا قِرَدَةً خَاسِئِينَ ﴿١٦٦﴾  
 وَإِذْ تَأَذَّنَ رَبُّكَ لِيَسْعَثَ عَلَيْهِمْ إِلَىٰ يَوْمِ الْفِتْمَةِ مَن يَسُومُهُمْ  
 سُوءَ الْعَذَابِ إِنَّ رَبَّكَ لَسَرِيعُ الْعِقَابِ وَإِنَّهُ لَغَفُورٌ رَّحِيمٌ ﴿١٦٧﴾  
 وَقَطَعْنَا لَهُمْ فِي الْأَرْضِ أُمَّمًا مِّنْهُمْ الصَّالِحُونَ وَمِنْهُمْ  
 دُونَ ذَلِكَ وَبَلَّوْنَهُمْ بِالْحَسَنَاتِ وَالسَّيِّئَاتِ لَعَلَّهُمْ  
 يَرْجِعُونَ ﴿١٦٨﴾ فَخَلَفَ مِنْ بَعدِهِمْ خَلْفٌ وَرثُوا الْكِتَابَ  
 يَأْخُذُونَ عَرَضَ هَذَا الْأَدْنَىٰ وَيَقُولُونَ سَيُغْفَرُ لَنَا وَإِن  
 يَأْتِهِمْ عَرَضٌ مِّثْلُهُ يَأْخُذُوهُ أَلَمْ يُؤْخَذْ عَلَيْهِمْ مِيثَاقُ الْكِتَابِ  
 أَن لَّا يَقُولُوا عَلَىٰ اللَّهِ إِلَّا الْحَقَّ وَدَرَسُوا مَا فِيهِ وَالِدَارُ الْأُخْرَىٰ  
 خَيْرٌ لِّلَّذِينَ يَتَّقُونَ أَفَلَا تَعْقِلُونَ ﴿١٦٩﴾ وَالَّذِينَ يُمَسِّكُونَ  
 بِالْكِتَابِ وَأَقَامُوا الصَّلَاةَ إِنَّا لَا نَضِيعُ أَجْرَ الْمُصْلِحِينَ ﴿١٧٠﴾

164 預言者よ、言え。かれらの中の一団が、禁じたり警告したりしていたので、他の一団は聞いた。なぜあなた方は、アッラーを信じず背いたので、アッラーが現世で滅ぼし、あるいは復活の日には激しい苦痛を与えようとする人々に、諭すのかと。そこでその一団は答えて言った。あなた方の主に、良識を命じ醜悪を禁じるという命令を実行することで、そうしないことによる罪を問われないようにするのだ。こうすることで、安息日を守らない人々は、警告に得るところもあるだろうし、背反から脱するかもしれない。

165 それでかれらが諭されていることを無視し、不信仰を止めなかったとき、アッラーは悪を禁じた人々を救い、土曜日に魚取りをして禁制を破って不正を働いた人々をこの上ない苦痛で襲った。なぜなら、かれらはアッラーに背いて、自身の反逆を続けたからである。

166 だからかれらが尊大さと頑固さからアッラーに反対して、禁じられていることについて則を越えた時、われらはかれらに言った。何と不信仰な者たちよ、あなた方は猿になって、軽蔑されるがよいと。それでかれらはそうなった。というのも、われらが望む時には、「あれ」と言うだけであるからだ。

167 預言者よ、あなたの主が、現世では復活の日まで、イスラエールの子孫に対して激しい苦痛を負わせる征服者を遣わすと明確に宣告したときのこと。実にあなたの主は懲罰に迅速だが、現世では罰を遅らせることもあり、悔悟した僕にはよく赦される方であり、慈悲深い方なのだ。

168 われらはかれらを、統合の後、地上で宗派に散り散りにした。かれらの中、ある人々はアッラーと僕の権利を守る正しい人々で、ある人々は中庸で、またある人々は背信して不信仰に陥っていた。かれらがアッラーに戻って来るかも知れないと思い、われらは順境と逆境でかれらを試みた。

169 そこでかれらの後に律法を継承した人々は、それを読んでもその通りにはしなかった。かれらは啓典から逸脱して、定められた裁きではないもので裁き、この低俗な現世の物品(賄賂)を受けとった。そしてわたしたちの罪は赦されるだろうと言った。またそれと同じような物品が届けば、さらにそれを受け取っていた。だがかれらはアッラーに、真理のみを語り、改竄や変更などを行わないと確約しなかったのか。かれらは啓典を知りつつそれに則って行わなかったので、決して無知ではなく、それだからこそ、その罪は重いのだ。来世の永遠の恩寵は、そのような消滅する享楽よりはるかに良くて、それは命令と禁制を遵守する、アッラーを畏れる人たちのためである。こういったつまらぬ享楽を受け取る連中は、アッラーが来世に準備されたものこそは最善で、永遠であることを理解しないのか。

170 啓典を遵守し、時間、条件、諸義務や慣行を守りつつ礼拝の務めを励行する人たち。このように身を正す人たちへの報奨を、アッラーは喪失されない。

**本諸節の功德:**

- アッラーの罰が降りるときには、良識を行い、醜悪を避けてきた人たちは、それを免れる。
- 現世でのアッラーの懲罰には用心すべきだ。それは恐ろしいものかも知れない。イスラエールの子孫の一団へのそれは、かれらの背信ゆえに、かれらを猿にするものであった。
- 信仰に次ぐ最善の行いは、礼拝を守ることである。それが教えの基本だからである。
- イスラエールの子孫には、アッラーは卑しさと貧困を定められた。その不正と逸脱によりアッラーは、定期的にかれらを懲らしめる人を送られる。
- 現世の快適さはいかに大きく見えても、来世の永劫のそれに比べれば、矮小で取るに足りないものである。

\*وَإِذْ نَتَقْنَا الْجَبَلَ فَوْقَهُمْ كَأَنَّهُ ظُلَّةٌ وَظَنُّوا أَنَّهُ وَاقِعٌ بِهِمْ خُذُوا مَا آتَيْنَاكُمْ بِقُوَّةٍ وَاذْكُرُوا مَا فِيهِ لَعَلَّكُمْ تَتَّقُونَ ﴿۱۷۱﴾  
 وَإِذْ أَخَذْنَا مِنْ بُنَىٰ آدَمَ مِنْ ظُهُورِهِمْ ذُرِّيَّتَهُمْ وَأَشْهَدَهُمْ عَلَىٰ أَنفُسِهِمْ أَلَسْتُ بِرَبِّكُمْ قَالُوا بَلَىٰ شَهِدْنَا أَن تَقُولُوا يَوْمَ الْقِيَامَةِ إِنَّا كُنَّا عَنْ هَذَا غَافِلِينَ ﴿۱۷۲﴾ أَوْ تَقُولُوا إِنَّمَا أَشْرَكَ آبَاؤُنَا مِنْ قَبْلُ وَكُنَّا ذُرِّيَّةً مِنْ بَعْدِهِمْ أَفَتُهْلِكُنَا بِمَا فَعَلَ الْمُبْطِلُونَ ﴿۱۷۳﴾ وَكَذَلِكَ نَقُصِّلُ الْآيَاتِ لِقَوْمٍ يَعْلَمُونَ ﴿۱۷۴﴾ وَأَتْلُ عَلَيْهِمْ نَبَأَ الَّذِي آتَيْنَاهُ آيَاتِنَا فَانْسَلَخَ مِنْهَا فَاتَّبَعَهُ الشَّيْطَانُ فَكَانَ مِنَ الْعَاوِينَ ﴿۱۷۵﴾ وَلَوْ شِئْنَا لَرَفَعْنَاهُ بِهَا وَلَكِنَّهُ أَخْلَدَ إِلَى الْأَرْضِ وَاتَّبَعَ هَوَاهُ فَمَثَلُهُ كَمَثَلِ الْكَلْبِ إِنْ تَحْمِلَ عَلَيْهِ يَلْهَثَ أَوْ تَرَكَهُ يَلْهَثُ ذَٰلِكَ مَثَلُ الْقَوْمِ الَّذِينَ كَذَّبُوا بِآيَاتِنَا فَاقْصُصِ الْقَصَصَ لَعَلَّهُمْ يَتَفَكَّرُونَ ﴿۱۷۶﴾ سَاءَ مَثَلًا الْقَوْمُ الَّذِينَ كَذَّبُوا بِآيَاتِنَا وَأَنفُسُهُمْ كَانُوا بِآيَاتِنَا كَاذِبِينَ ﴿۱۷۷﴾ مَنْ يَهْدِ اللَّهُ فَهُوَ الْمُهْتَدَىٰ وَمَنْ يُضِلِلْ فَلَا وَلِيكَ هُمْ الْخَاسِرُونَ ﴿۱۷۸﴾

滅の人たちの一人となった。

①74 もしわれらが望んだならば、われらはこれらの印をかれに役立てて、現世と来世において、かれを引き立てたことだろう。しかしかれはこの世の欲望に執着し、来世よりも好んだので、失敗の道を歩んだ。現世の欲に駆られるかれは、犬のようなもので、たとえ休んでいても追いかけられても、ハーハーと舌を垂れている。これはアッラーの印を嘘呼ばわりした、迷える人の例である。だからかれらが熟考するために、そしてかれらが真実を拒否し過ちに導かれることに引き入れられないために、この物語を告げよ。

①77 最悪は、アッラーの印と証拠を嘘呼ばわりし、それを信じずに、自分自身を損ない、破滅を稼いできた人たちである。

①78 誰でもアッラーが正しい道に導いた人は、真に導かれた人である。他方、かれが正しい道から迷わせた人は、損失者である。復活の日には、かれらとその家族は損失をこうむるが、かれらこそは明瞭な失敗者である。

#### 本諸節の功德:

- 啓示が下されるのは、それに従って行動するためで、読誦したりするだけであればそれは無視しているのと同じことになる。
- アッラーは人間創造のときから、その唯一性を理解する天性をもうけられた。その性格が健全で、腐っていなければ、これらの印を認知して、それに従って行動するであろう。
- クルアーンに従って行動して成功した人たちにとり、教訓がその中にある。つまりそれに従うことができたのは、アッラーの恩寵であったということを知ったということ。またそれにより、自身を清めることができたということである。
- 印には、ムスリムたちが至高なるアッラーに導きを求めて向かうことと、過ちの危険から守られるという、教えが含まれている。

①71 預言者よ、言え。イスラームの子孫が律法にあることを拒否したので、われらがかれらの上を覆う雲のように山を持ち上げ、自分たちの上にそれが落ちて来るとかれらが恐れたとき、アッラーは言った。われらがあなた方に確かに授けた啓典を真剣に、精いっぱい、そして決意を持って遵守し、その中にある主の掟に留意し、忘れないように。そうしてあなた方は、アッラーを畏れるように。

①72 預言者よ、言え。あなたの主が、アダムの子孫の腰からかれらの子孫を取り出し、主の創造について認めることを天性の一部とされ、アッラーがその主であることを証言させたときのこと、アッラーは言った。われは、あなた方の主ではないのか。かれらは言った。はい、まさしくわたしたちは証言します。アッラーは言った。こうして試験を与えて、誓約させたのは、復活の日、アッラーの証拠を否定し、わたしたちは知らないと言わないためである。

①73 もしくは、約束に反してあなたに同位者を配していたのはわたしたちの先祖で、わたしたちはその後の子孫にすぎない。それでアッラーに並置することで自身の行いを無意味にしていた祖先が行なったことのために、わたしたちを罰するのか、われわれには罪はなく、われわれは知らず、祖先を模倣していただけだと、あなた方が言わないためである。

①74 このようにわれらは以前の嘘つきの人々にもそうしたように、かれらにも印や証拠を解明する。かれらも反省して、多神ではなく、唯一神アッラーに戻って来るかも知れないと思って。それは以前にかれとした、約束の通りにするのである。

①75 預言者よ、われらが印を与えた人の話を、イスラームの子孫に告げよ。かれらはそれを読んで、証明された真実を理解したのにそれから離れたので、悪魔はかれを付け狙い、その人は導かれていたのに、迷い去った破

وَلَقَدْ ذَرَأْنَا لِجَهَنَّمَ كَثِيرًا مِنَ الْجِنِّ وَالْإِنْسِ لَهُمْ قُلُوبٌ لَا يَفْقَهُونَ  
 بِهَا وَلَهُمْ أَعْيُنٌ لَا يُبْصِرُونَ بِهَا وَلَهُمْ آذَانٌ لَا يَسْمَعُونَ بِهَا  
 أُولَئِكَ كَالْأَنْعَمِ بَلْ هُمْ أَضَلُّ أُولَئِكَ هُمُ الْعُقَلُونَ ﴿١٧٤﴾ وَاللَّهُ  
 الْأَسْمَاءُ الْحُسْنَىٰ فَادْعُوهُ بِهَا وَذَرُوا الَّذِينَ يُلْحِدُونَ فِي أَسْمَائِهِ  
 سَيُجْرَبُونَ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿١٧٥﴾ وَمِمَّنْ خَلَقْنَا أُمَّةً يَهْدُونَ بِالْحَقِّ  
 وَبِهِ يَعْدِلُونَ ﴿١٧٦﴾ وَالَّذِينَ كَذَّبُوا بَيْنَنَا سَنَسْتَدْرِجُهُم  
 مِنْ حَيْثُ لَا يَعْلَمُونَ ﴿١٧٧﴾ وَأُمَلِي لَهُمْ إِنْ كَيْدِي مَتِينٌ ﴿١٧٨﴾ أُولَئِكَ  
 يَتَفَكَّرُوا مَا بِصَاحِبِهِمْ مِنْ جِنَّةٍ إِنْ هُوَ إِلَّا نَذِيرٌ مُبِينٌ ﴿١٧٩﴾  
 أُولَئِكَ يَنْظُرُونَ فِي مَكَاوِتِ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا خَلَقَ اللَّهُ  
 مِنْ شَيْءٍ وَأَنْ عَسَىٰ أَنْ يَكُونَ قَدِ اقْتَرَبَ أَجَلُهُمْ فَبِأَيِّ حَدِيثٍ  
 بَعْدَهُ يُؤْمِنُونَ ﴿١٨٠﴾ مَنْ يُضِلِلِ اللَّهُ فَلا هَادِيَ لَهُ وَيَذَرُهُمْ  
 فِي طُغْيَانِهِمْ يَعْمَهُونَ ﴿١٨١﴾ يَسْتَأْذِنُكَ عَنِ السَّاعَةِ أَيَّانَ مُرْسَاهَا  
 قُلْ إِنَّمَا عِلْمُهَا عِنْدَ رَبِّي لا يُجِيبُهَا لَوْ قَرَّبَهَا إِلَّا هُوَ ثَقُلَتْ فِي  
 السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ لا تَأْتِيكُمْ إِلَّا بَغْتَةً يَئْتِي بَعْدَ أَنْ يَأْمُرَ بِهَا  
 قُلْ إِنَّمَا عِلْمُهَا عِنْدَ اللَّهِ وَلَكِنْ أَكْثَرُ النَّاسِ لا يَعْلَمُونَ ﴿١٨٢﴾

179 確かにわれらは地獄行きとなる、多くの幽精(ジン)と人間を創ったが、それらは地獄の住人の行動を取ることが分かっているからである。かれらは、心はあっても何が益し何が害するかが分からず、目はあっても心の中や水平線上のアッラーの印を見ないで学ばず、また耳はあっても反省のためにアッラーの啓示を聞くことはない。かれらに理性はなくて、家畜のようだ。いや、それよりも迷っている。かれらは、アッラー信仰と最後の日に不注意な人たちである。

180 称賛されるべきアッラーに、その荘厳さと完璧さを示す、最もすばらしい美称は属する。だから何かお願いするときは、これらの美称で、かれを呼び、称えよ。そしてかれの美称の真実に背いて、それを他の神に賦与したり、拒否したり、意味をねじ曲げたり、それで別のものをアッラーに似せたりする人を放っておけ。アッラーは、これらの真実に反する人たちに痛烈な罰を与えられる。

181 またわれらが創った人々には、真理によって導かれ、またそれに呼び掛けることでまた導かれ、真実を通じてその判断も公正になり、過ちをしない共同体がある。

182 しかしわれらの印を否定し、信じないで、拒否する人たちにも、この世で引き続き糧を与えられる。しかしそれはかれらを評価してではなく、かれらの過ちを継続させて、徐々にその過ちを深めるためである。そして突然に、われらが懲罰をもたらすためである。

183 かれらが罰を受けないと考えるまでかれらに猶予が与えられる。つまり、拒否と不信仰を継続し、罰も増大するのである。実にわれらの深謀は強く、外見では良く見えても、恥辱を望んでいるのである。

184 かれらはアッラーの印と預言者を拒否し、熟考しないのか。ムハンマド(アッラーの祝福と平安を)は気が狂ったのではないことに気付かないのか。かれは懲罰につき明瞭に知らせるために送られた、アッラーからの一人の警告者に他ならない。

185 かれらは諸天と地の大権について、またアッラーが創造した動物や植物などすべてのものについて、そしてかれらの期限が近くに迫っているかもしれないことについて、時機を逃す前に考察しないのか。それでこの後、クルアーンとその中にある約束と警告を信じないならば、どんな書をかれらは信じようとするのか。

186 アッラーが真実と正しい道から迷わせた人に、導きはない。かれは、このような人たちを、過ちと不信仰のまま、さ迷い、何にも導かれることがないままに放っておかれる。

187 かれら嘘つきで頑固な連中は復活のときについて、到来がいつか、そしてそれを知ることとなるのかとあなたに問うだろう。言え、預言者よ。その知識は、わたしにはなく、他の誰にもない。それはアッラーだけにある。その定められた時を明らかにするのはかれの他にいない。それは、諸天にも地の人々にも知らされていない。それは突然あなた方にやって来るのだ。かれらは、あなたがそれについて知りたがっているかのように聞くであろう。しかしあなたは主をよく知っているの、それを知ろうとはしていないが、かれらはそれを知らないのだ。言え、その知識はただアッラーのみにあるのだ。しかし大半の人々には、これがわからない。

本諸節の功徳:

- アッラーは人間に知識と認識の能力として、心、目、耳を与えられたが、それはそれで益を得て、害を避けるためである。
- 美称でアッラーを呼ぶことは、それに応えてもらうための一つの方法である。願ひ事に一番適切な美称で呼ぶべきである。例えば、ああ赦される方よ、わたしをお赦しくださいという風にである。
- 諸天と地を熟慮し、それで至高のアッラーに思いを馳せ、かれこそは崇め立てるに価する唯一の存在である、つまりかれのみが唯一の創造主であることを知ることが重要である。

قُلْ لَا أَمْلِكُ لِنَفْسِي نَفْعًا وَلَا ضَرًّا إِلَّا مَا شَاءَ اللَّهُ وَلَوْ كُنْتُ  
 أَعْلَمُ الْغَيْبِ لَأَسْتَكْثَرْتُ مِنَ الْخَيْرِ وَمَا مَسَّنِيَ السُّوءُ  
 إِنْ أَنَا إِلَّا نَذِيرٌ وَبَشِيرٌ لِّقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ﴿١٨٨﴾ \* هُوَ الَّذِي خَلَقَكُمْ  
 مِنْ نَفْسٍ وَاحِدَةٍ وَجَعَلَ مِنْهَا زَوْجَهَا لِيَسْكُنَ إِلَيْهَا فَلَمَّا  
 تَغَشَّاهَا حَمَلَتْ حَمْلًا خَفِيًّا فَاَمْرَتْ بِهِ فَلَئِمَّا أَتَقَلَّتْ دَعَا  
 اللَّهَ رَبَّهُمَا لَئِن آتَيْتَنَا صَالِحًا لَتَكُونَنَّ مِنَ الشَّاكِرِينَ ﴿١٨٩﴾  
 فَلَمَاءَ آتَاهُمَا صَالِحًا جَعَلَا لَهُ شُرَكَاءَ فِيمَاءَ آتَاهُمَا فَتَعَالَى  
 اللَّهُ عَمَّا يُشْرِكُونَ ﴿١٩٠﴾ أَيَسِّرْ لَنَا مَا لَا يَخْلُقُ شَيْئًا وَهُمْ يُخْلِقُونَ  
 ﴿١٩١﴾ وَلَا يَسْتَطِيعُونَ لَهُمْ نَصْرًا وَلَا أَنفُسُهُمْ يَنْصُرُونَ ﴿١٩٢﴾  
 وَإِن تَدْعُوهُمْ إِلَى الْهُدَى لَا يَتَّبِعُوكُمْ سِوَاءَ عَلَيْهِمُ أَدْعَاؤُهُمْ  
 أَمْ أَنْتُمْ صَالِمُونَ ﴿١٩٣﴾ إِنْ الَّذِينَ تَدْعُونَ مِنْ دُونِ اللَّهِ عِبَادٌ  
 أَمْثَلُكُمْ فَاذْعُوهُمْ فَلَيْسَ تَجِيبُوا لَكُمْ إِن كُنْتُمْ  
 صَادِقِينَ ﴿١٩٤﴾ اللَّهُمَّ أَرْجُلُ يَمْسُونَ بِهَا أُمَّلَهُمْ أَيْدِي يَبِطْشُونَ  
 بِهَا أُمَّلَهُمْ أَعْيُنٌ يُبْصِرُونَ بِهَا أُمَّلَهُمْ آذَانٌ يَسْمَعُونَ  
 بِهَا قُلْ أَدْعُوا شُرَكَاءَ كُفْرَتُمْ كِيدُونِ فَلَا تُنظَرُونَ ﴿١٩٥﴾

188 言え、預言者よ。わたしには、アッラーがお望みにならない限り、わたし自身を益しまたは害する力もない。それらはアッラーのみの分野であり、わたしはアッラーが教えてくれたことだけしか知らない。もしわたしが見えない世界を知っていたならば、わたしは善を増幅させていただろうし、災いが起こる前にそれを知って、防衛することもできたであろう。わたしが預言者であることとわたしがもたらす啓示を信仰する人々のための、至高なるアッラーからの1人の懲罰の警告者であり、報奨の吉報を伝える1人の使者にすぎない。

189 男女よ、かれこそは、アーダム(平安あれ)というひとつの魂からあなた方を創り、安らぎを得るために、その肋骨からハワーという配偶者を創られた方である。かれがかの女と交わると、かの女は少し荷を感じたけれど、それと共に生活していた。しかしかの女が重くなるにつれて、両人はかれらの主に祈願した。もしあなたが健全な良い子をわたしたちにお授けになれば、わたしたちはその恵みに対して感謝を捧げるだろうと。

190 ところがアッラーが両人に良い子を授けると、かれらは授けられたのももって、かれに同位者を並置した。名前をアブド・アル・ハーリスとして、その子をアッラー以外のものに崇めさせたのだが、アッラーは、かれら多神教徒が同位を配するものの上に、高くおられる。かれは、唯一の主であり、唯一の神である。

191 かれらは偶像で、何も創造できないものや、自らが創造され、崇拝に値しないというものを、どうしてアッラーと同位に配することができるのか。

192 それらアッラーに並置される被造物はかれらを助けず、さらには自分自身も助けられない。それらを崇めるといのは、どういうことだ。

193 多神教徒よ、たとえあなたが導きへと、それら偶像を呼んでも、あなた方に答えず、従わないだろう。あなた方が呼びかけても、黙っていても、あなた方にとっては同じことである。それらは単に物に過ぎず、考えもせず、聞かず、話さないのだ。

194 多神教徒よ、確かにアッラーの他にあなた方が崇拝している被造物も、あなた方のようにアッラーのものである。その意味ではあなた方と同じだが、あなた方は生きているし、話し、歩き、聞き見るが、偶像はそうでないので、あなた方の方がまだましだ。だからもしあなた方が言うことが本当ならば、それら呼んでみよ。そしてあなた方に返答させてみよ。

195 それら神として崇められる被造物には、生活のために歩く足があるのか、力で守るための手があるのか、隠れていたものを見てそれを知らせる目があるのか、または聞いて知らせる耳があるのか。もしできないならば、受益し害から防御することを望んで、それらをどうして拝むのか。ムハンマドよ、言え。あなた方多神教徒の多神を呼んでみよ。さらにわたしに対して策謀してみよ。躊躇することはない。

### 本諸節の功德:

- 本諸節により明らかになるのは、預言者(アッラーの祝福と平安を)に益をもたらし害から守るように嘆願することは、無知にほかならない。それらは、かれがもたらす吉報と警告を通してやって来るのである。
- アッラーはその優しさ慈悲により、女性の配偶者を男性と同じものから創られた。そうしてかれは、彼女に親しく感じ、親切にし、互いに一緒にいることを楽しみとされた。そして子供をもうけることで、天啓の知恵を知るのである。
- 創造されたものの中でも最良で、完璧で、最も高貴な人間として、石や木材など最もつまらなく低俗な素材の偽神体を拝むことは、ありえない。
- 理性ある者にとり、至高のアッラーを奉ることは、義務である。なぜならば、かれこそは、教えについて偉大な知識を含む書を下して、その教えの益を実現するからである。またそれに含まれるのは、僕に対する現世の利益として、かれらを守り、助力すること、そして敵対する者の敵対行為をくい止めることである。

إِنَّ وَلِيَّيَ اللَّهُ الَّذِي نَزَّلَ الْكِتَابَ وَهُوَ يَتَوَلَّى الصَّالِحِينَ  
 وَالَّذِينَ تَدْعُونَ مِنْ دُونِهِ لَا يَسْتَجِيبُونَ نَصَرَكُمْ  
 وَلَا أَنْفُسَهُمْ يَنْصُرُونَ وَإِنْ تَدْعُوهُمْ إِلَى الْهُدَى لَا يَسْمَعُوا  
 وَتَرَاهُمْ يَنْظُرُونَ إِلَيْكَ وَهُمْ لَا يُبْصِرُونَ خذ الْعَفْوَ  
 وَأْمُرْ بِالْعُرْفِ وَأَعْرِضْ عَنِ الْجَاهِلِينَ وَإِنَّمَا يَنْزَعُكَ  
 مِنَ الشَّيْطَانِ نَزْعٌ فَاسْتَعِذْ بِاللَّهِ إِنَّهُ سَمِيعٌ عَلِيمٌ إِنَّ  
 الَّذِينَ اتَّقَوْا إِذَا مَسَّهُمْ طَآئِفٌ مِنَ الشَّيْطَانِ تَذَكَّرُوا  
 فَإِذَا هُمْ مُبْصِرُونَ وَإِخْوَانُهُمْ يَمُدُّوهُمْ فِي الْغَيِّ ثُمَّ  
 لَا يُقْصِرُونَ وَإِذَا لَمْ تَأْتِهِمْ بَيِّنَةٌ قَالُوا لَوْلَا اجْتَبَيْتَهَا  
 قُلْ إِنَّمَا اتَّبَعُ مَا يوحَىٰ إِلَيَّ مِنْ رَبِّي هَذَا بَصَآئِرٌ مِنْ رَبِّكُمْ  
 وَهُدًى وَرَحْمَةً لِّقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ وَإِذَا قُرِئَ الْقُرْآنُ  
 فَاسْتَمِعُوا لَهُ وَأَنْصِتُوا لَعَلَّكُمْ تُرْحَمُونَ وَأَذْكُرْ رَبَّكَ  
 فِي نَفْسِكَ تَضَرَّعًا وَخِيفَةً وَدُونَ الْجَهْرِ مِنَ الْقَوْلِ بِالْغُدُوِّ  
 وَالْآصَالِ وَلَا تَكُنْ مِنَ الْغَافِلِينَ إِنَّ الَّذِينَ عِنْدَ رَبِّكَ  
 لَا يَسْتَكْبِرُونَ عَنْ عِبَادَتِهِ وَيُسَبِّحُونَهُ وَلَهُ يَسْجُدُونَ

سجدة

196 誠にわたしの擁護者はアッラーで、かれ以外には必要ない。偶像に恐れることはない。かれは啓典を導きとして人々に啓示された。かれこそは正しい人たちを擁護し、安全にし、助力する。

197 そしてアッラーの他にあなた方が祈っていた偶像たちは、あなた方を助けることができず、自分自身さえも助けることができない。かれらは全く無能で、何もできず、アッラーを置いてどうしてかれらと呼ぶことができるだろうか。

198 たとえあなた方がかれら偶像を正しさに招いても、かれらは聞かない。あなたはかれらが、目を塗られてあなたを傍観しているのを見る。かれらは物であり、見ることはできない。かれらは人間や動物の像を手、足、目を付けて、像を造っていたが、それらは物に過ぎないのだ。非生物で動くこともできない。

199 預言者(アッラーの祝福と平安あれ)よ、人々の心が許容できるもの、かれらが容易にできる行動や道徳を受け入れて、かれらの性向からして難しすぎることは求めるではない。そうしたら、かれらは離れてゆくからだ。美しく話し、善行を重ね、馬鹿げた人から遠ざかり、その無知さに向かい合うではない。人があなたを傷つけても、かれらを傷つけてはならない。またあなたを拒否するとしても、その人を拒否してはならない。

200 そして悪魔がつぶやいてあなたを誘惑に来たり、善行を差し止めようとするときは、アッラーに逃れて、その庇護を求めよ。誠にかれは全聴にして、あなたが庇護を求めた時はそれを知り、悪魔から守ってくれる。

201 アッラーを畏れ、その命令に従い、禁止されたことから遠ざかる人たちは、悪魔からの悪い誘惑がかれらに来て罪を犯させると、アッラーの力と悪行の輩への懲罰と善行の者への報奨を想起する。不信仰者の背反行為から遠ざかり、赦しを請いつつアッラーに向かうことで、かれらは正しくあり、悪行を明瞭に見つつ、それには同調しないのである。

202 でも悪魔の兄弟は、非道徳と不信仰を犯しつつ、他の悪魔によって次から次へと罪を重ねるのだ。悪魔たちは、人々を迷わせることから、決して手を緩めない。放つな人間たちは不服従と悪行を犯し続ける。

203 預言者(アッラーの祝福と平安あれ)よ、あなたが印をかれらにもたらすと、それを拒否し、背いてしまう。そしてそれをもたらさないと、なぜあなたはそれを自身で創作しないのかと、かれらは言う。言え、わたしは、自分で印をもたらすのではない。ただ自分の主がわたしに啓示されるものを繰り返すだけなのだ。このわたしが読むクルアーンは、あなた方の創造の主であり統率者であるアッラーからの証拠で証明だが、それは信じる人たちへの導きであり、慈悲である。不信仰の人たちは、迷って惨めな状態にある。

204 それでクルアーンが読誦されるときは、それを傾聴し、また話を止めよ。また他のことに気を奪われるな。そうすれば、あなた方は慈悲を授かるだろう。

205 そしてあなたの主であるアッラーを、腰を低くして、自分の心の中で畏怖しなさい。大声を控え、一日の初めと終わりに唱えなさい。それは格別の時間帯である。称賛されるアッラーについて、不注意な人たちの仲間となつてはいけなない。

206 本来にあなたの主の元にいる天使たちは、かれに服従することで高慢にならずに、ひたすらかれに帰依し、疲れ知らずに従って、夜も昼もかれを奉り、かれのみに平伏している。

本諸節の功德:

- これらの諸節には、預言者(アッラーの祝福と平安あれ)の道を辿るムスリムたちへの吉報がある。アッラーは、預言者とその仲間を助けられたように、かれらを助けられる。
- これらの諸節には、望ましい人徳が網羅されている。信者は、不正をした相手を赦し、拒絶した相手に与え、関係を切った相手と関係を修復しなければならない。
- 僕はシャイターンの悪にそそのかされ、禁じられたことをしてしまったり、義務行為を果たさなかつたりしたときには、アッラーに赦しを請い、悔悟と善行によってつくなわなければならない。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

يَسْأَلُونَكَ عَنِ الْأَنْفَالِ قُلِ الْأَنْفَالُ لِلَّهِ وَالرَّسُولِ فَأَتَقُوا اللَّهَ  
وَأَصْلِحُوا ذَاتَ بَيْنِكُمْ وَأَطِيعُوا اللَّهَ وَرَسُولَهُ إِنْ كُنْتُمْ  
مُؤْمِنِينَ ۝ إِنَّمَا الْمُؤْمِنُونَ الَّذِينَ إِذَا ذُكِرَ اللَّهُ وَجِلَّتْ  
قُلُوبُهُمْ وَإِذَا تُلِيَتْ عَلَيْهِمْ آيَاتُهُ زَادَتْهُمْ إِيمَانًا وَعَلَىٰ رَبِّهِمْ  
يَتَوَكَّلُونَ ۝ الَّذِينَ يُقِيمُونَ الصَّلَاةَ وَمِمَّا رَزَقْنَاهُمْ  
يُنْفِقُونَ ۝ أُولَٰئِكَ هُمُ الْمُؤْمِنُونَ حَقًّا لَهُمْ دَرَجَاتٌ عِنْدَ  
رَبِّهِمْ وَمَغْفِرَةٌ وَرِزْقٌ كَرِيمٌ ۝ كَمَا أَخْرَجَكَ رَبُّكَ  
مِنَ بَيْتِكَ بِالْحَقِّ وَإِنَّ فَرِيقًا مِنَ الْمُؤْمِنِينَ لَكَرِهُونَ  
يُجَادُونَكَ فِي الْحَقِّ بَعْدَ مَا تَبَيَّنَ كَأَنَّمَا يُسَاقُونَ إِلَى الْمَوْتِ  
وَهُمْ يَنْظُرُونَ ۝ وَإِذْ يُعِدُّكُمُ اللَّهُ إِحْدَى الطَّلَافِئِينَ أَنَّهَُا  
لَكُمْ وَتَوَدُّونَ أَنَّ غَيْرَ ذَاتِ الشُّوْكَةِ تَكُونُ لَكُمْ وَيُرِيدُ  
اللَّهُ أَنْ يُحَقِّقَ الْحَقَّ بِكَلِمَاتِهِ وَيَقْطَعَ دَابِرَ الْكَافِرِينَ ۝  
لِيُحَقِّقَ الْحَقَّ وَيُبْطِلَ الْبَاطِلَ وَلَوْ كَرِهَ الْمُجْرِمُونَ ۝

ら出て行かせた。しかし信者の一派はそれは好まなかった。

⑥ 預言者(アッラーの祝福と平安あれ)よ、信者の一派は、多神教徒たちとの戦闘について、それが起こることが明らかにされた後でも、あなたと議論する。まるで戦死に向かって、追い立てられるように、またその死を、目を開いて見るようにする。かれらは戦闘に出て行きたくないのだ。かれらはそうする準備をしていないのだ。

⑦ 信者で議論する人たちよ、アッラーが多神教徒たちの2隊の中、1隊はあなた方が負かしてしまうと約束したときのこと。富を積んで戦利品をもたらす隊商が、戦闘をする軍隊かであるが、あなた方は戦闘しなくて済む隊商が、あなた方のものであるようにと望んだ。しかしアッラーはかれの言葉通り、多神教徒たちの指導者を殺害して、また多くを捕虜にして戦うようにとの命令で真理を立証し、イスラームの力を明確にしようとの考えであった。

⑧ かれはイスラームとその人々を勝利させて、その言葉の真実なることを証明し、真理を真理とされる。また間違いを間違いとして立証する。それは、多神教徒たちが嫌ってもそうされるのである。

#### 本諸節の功德:

- 僕は信仰を誓って、それを育成させるべきである。信仰は増減するからだ。帰依すれば増強されるし、その逆も真なりである。
- 真実が不鮮明ならば、議論の余地はある。しかし一旦それが明白になれば、その後は服従するのみである。
- 預言者(アッラーの祝福と平安あれ)に、戦利品のことは任せられている。そして至高なるアッラーと預言者にその規定は委ねられている。それ以外にはないのだ。
- アッラーは信者たちに神的援助の実現を望んでいる。そして真実を実現し、虚偽を虚偽としたいのである。

#### 本章の趣旨:

バドルの戦いにおけるアッラーの勝利という信者たちへの恩恵と勝敗の要因を明らかにする。

#### 説明:

① 預言者(アッラーの祝福と平安あれ)よ、かれらは戦利品について、あなたに問う。言え。戦利品はアッラーと使徒のもの。だからそれをどうするかは、アッラーと預言者次第である。あなた方が信者ならば、アッラーを畏れ、命令に従い禁止を犯さず、あなた方の間の相違を正し、悪い関係を互いの友愛、交流、そして善行と寛容性で修復して、アッラーとその使徒(ムハンマド)に従え。信仰は服従と、背反から遠ざかることを教える。この問いかけは、バドルの戦いの後のものであった。

② 信者とは、至高なるアッラーの御名が唱えられるとその心が畏れおののき、心身ともに帰依し、かれらに印が読誦されると、熟慮し、信心を深め、益を引き寄せ悪を避けるために、主にだけ頼りきる人たちである。

③ 時間通りに礼拝の務めを守り、われらが授けたものから義務的なものと奨励されるものを施す人たち、

④ かれらこそ真の信者である。かれらには信仰と目に見える形のイスラームの特徴がある。アッラーの御元で、高い位階と赦しと最善の糧がある。それらはアッラーが準備された安楽である。

⑤ 至高なるアッラーは、戦利品に関してあなた方の間に相違や争いが生じたので、それらをアッラー自身と預言者(アッラーの祝福と平安あれ)のものとした。同時に、預言者(アッラーの祝福と平安あれ)よ、主は啓示をもって、多神教徒との対峙のために、あなたをマディーナから



إِذْ تَسْتَغِيثُونَ رَبَّكُمْ فَاسْتَجَابَ لَكُمْ أَنِّي مُمِدُّكُمْ بِالْفِ  
 مِّنَ الْمَلَائِكَةِ مُرَدِّينَ ﴿٩﴾ وَمَا جَعَلَهُ اللَّهُ إِلَّا بُشْرَى  
 وَيُظْمِنُ بِهِ قُلُوبُكُمْ وَمَا التَّصْرُ إِلَّا مِنْ عِنْدِ اللَّهِ إِنَّ اللَّهَ  
 عَزِيزٌ حَكِيمٌ ﴿١٠﴾ إِذْ يَغْشَى كُرُ النَّعَاسِ أَمْنَةً مِنْهُ وَيُنزِلُ  
 عَلَيْكُمْ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً لِيُطَهِّرَكُمْ بِهِ وَيُذْهِبَ عَنْكُمْ  
 رِجْسَ الشَّيْطَانِ وَلِيَرْبِطَ عَلَى قُلُوبِكُمْ وَيُثَبِّتَ بِهِ الْأَقْدَامَ  
 ﴿١١﴾ إِذْ يُوحَى رَبُّكَ إِلَى الْمَلَائِكَةِ أَنِّي مَعَكُمْ فَثَبَّتُوا الَّذِينَ  
 ءَامَنُوا سَأَلْتَنِي فِي قُلُوبِ الَّذِينَ كَفَرُوا الرَّعْبَ فَأَصْرَبُوا  
 فَوْقَ الْأَعْنَاقِ وَأَصْرَبُوا مِنْهُمْ كُلَّ بَنَانٍ ﴿١٢﴾ ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ  
 شَاقُوا اللَّهَ وَرَسُولَهُ وَمَنْ يُشَاقِقِ اللَّهَ وَرَسُولَهُ فَإِنَّ اللَّهَ  
 شَدِيدُ الْعِقَابِ ﴿١٣﴾ ذَلِكَمْ فَذُوقُوهُ وَأَنَّ لِلْكَافِرِينَ  
 عَذَابَ النَّارِ ﴿١٤﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا إِذَا الْقَيْسُمُ الَّذِينَ  
 كَفَرُوا رَحَقًا فَلَا تُولَّهُمْ الْأَدْبَارَ ﴿١٥﴾ وَمَنْ يُولَّهُمْ يَوْمَئِذٍ  
 دُبُرَهُ إِلَّا مُتَحَرِّفًا لِقِتَالٍ أَوْ مُتَحَيِّزًا إِلَى فِئَةٍ فَقَدْ بَاءَ  
 بِغَضَبٍ مِنَ اللَّهِ وَمَأْوَاهُ جَهَنَّمُ وَبِئْسَ الْمَصِيرُ ﴿١٦﴾

⑨バドルの戦いの日、敵に対して勝利するためあなた方がアッラーの援助を求めたとき、**かれ**は、信者たちよ、次ぎ次ぎに来る千人の天使たちで、あなた方に応えた。

⑩信者たちよ、アッラーは、ただこれを敵に対する支援とあなた方への吉報とし、あなた方の心がそれによって勝利を確信して、安らぐためであった。勝利は数や準備の大小ではなく、至高なるアッラーからだけ来る。アッラーは誠に偉力大で、誰も負かすことはできず、規定と定命において英明である。

⑪信者たちよ、アッラーは、アッラーからの安堵として、あなた方を睡眠に包み、敵からの恐怖心を安らげ、空から雨を降らせて、それであなた方を清めて、悪魔のささやきを取り除き、それであなた方の心を強くして、戦いで体の体を頑丈にした。また砂の地面を固めて、あなた方の足をしっかりとらせて、沈んだり滑ったりしないようにした。

⑫預言者(アッラーの祝福と平安あれ)よ、あなたの主がバドルの戦いで、信者の助けとなった天使たちに啓示して、アッラーは言った。**われ**は、支援のためにあなた方と共にいる。だから敵との闘いでは、信仰する人たちの決意を堅固にせよ。**われ**は不信心な人たちの心の中に、恐怖を投げ込む。そしてあなた方はかれらの首の上を打って殺し、また戦闘できないようにするため、それぞれの関節や四肢を打て。

⑬不信仰者が殺され、四肢が切断されるのは、かれらがアッラーとその使徒に反抗したためだ。かれらは命命に従わず、禁止されたことを停止しなかった。アッラーとその使徒に反抗する人は、アッラーは現世では殺害か捕虜にして、来世では地獄の火の懲罰を与える。

⑭アッラーと預言者に反対する者よ、現世における即刻の懲罰を味わえ。そして不信仰を固執して死んだならば、あなた方には地獄の火の懲罰がある。

⑮アッラーを信じ、預言者に従う人たちよ、攻撃してくる多神教徒たちに会ったとき、あなた方はかれらに背を向けてはいけな。忍耐強くし、しっかり対面するように。アッラーがあなた方を支援しているのだ。

⑯その日かれらに背を向ける人は、作戦として逃げると見せて、その後反逆に転ずるといった作戦か、または味方の軍に合流するため以外は、アッラーの怒りを被り、かれの住まいは地獄となる。何と悪い行き先で、悲惨な転落所なのか。

**本諸節の功德:**

- アッラーの印は、以下を明らかにする。その信者の信仰を強め、足元を固めることで、信者たちの負担を軽くし、かれらに手助けする。そして嫌悪されるものは止み、悪魔のささやきも停止される。
- 支援は至高なるアッラーの手中にあり、またかれから来るものだ。準備は必要だが、その支援は人数や装備の多さではない。
- 正当な理由なくして敵前逃亡することは、大いなる罪である。
- これらの諸節の中には、戦闘の原則を信者に教えることがある。それは、アッラーと預言者への帰依、敵前での堅固さ、戦闘での忍耐、そしてアッラーを多く唱えることである。

فَلَمْ تَقْتُلُوهُمْ وَلَكِنَّ اللَّهَ قَتَلَهُمْ وَمَا رَمَيْتَ إِذْ رَمَيْتَ  
 وَلَكِنَّ اللَّهَ رَمَىٰ وَلِيُبْلِيَ الْمُؤْمِنِينَ مِنْهُ بَلَاءً حَسَنًا  
 إِنَّ اللَّهَ سَمِيعٌ عَلِيمٌ ﴿١٧﴾ ذَلِكُمْ وَأَنَّ اللَّهَ مُوهِنٌ كَرِيمٌ  
 الْكَافِرِينَ ﴿١٨﴾ إِن تَسْتَفْتِ حُوفًا فَدَجَاءَ كُمْ الْفَتْحُ وَإِن  
 تَنْتَهُوا فهُوَ خَيْرٌ لَّكُمْ وَإِن تَعُودُوا نَعُدْ وَلَنْ تُغْنِيَ عَنْكُمْ  
 فِتْنَتُكُمْ شَيْئًا وَلَوْ كَثُرَتْ وَأَنَّ اللَّهَ مَعَ الْمُؤْمِنِينَ ﴿١٩﴾  
 يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا أَطِيعُوا اللَّهَ وَرَسُولَهُ وَلَا تَوَلَّوْا عَنَّهُ  
 وَأَنْتُمْ تَسْمَعُونَ ﴿٢٠﴾ وَلَا تَكُونُوا كَالَّذِينَ قَالُوا سَمِعْنَا وَهُمْ  
 لَا يَسْمَعُونَ ﴿٢١﴾ إِنَّ شَرَّ الدَّوَابِّ عِنْدَ اللَّهِ الضَّمُورُ الْبُكْمُ  
 الَّذِينَ لَا يَعْقِلُونَ ﴿٢٢﴾ وَلَوْ عَلِمَ اللَّهُ فِيهِمْ خَيْرًا لَأَسْمَعَهُمْ  
 وَلَوْ أَسْمَعَهُمْ لَتَوَلَّوْا وَهُمْ مُّعْرِضُونَ ﴿٢٣﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ  
 ءَامَنُوا اسْتَجِيبُوا لِلَّهِ وَلِلرَّسُولِ إِذَا دَعَاكُمْ لِمَا يُحْيِيكُمْ  
 وَعَلِمُوا أَنَّ اللَّهَ يَحُولُ بَيْنَ الْمَرْءِ وَقَلْبِهِ وَأَنَّهُ إِلَٰهٌ  
 مُّحْشَرُونَ ﴿٢٤﴾ وَأَتَّقُوا يَوْمَ لَا تَصِيبُ الَّذِينَ ظَلَمُوا  
 مِنْكُمْ حَاصَّةٌ وَعَلِمُوا أَنَّ اللَّهَ شَدِيدُ الْعِقَابِ ﴿٢٥﴾

17 信者たちよ、バドルの戦いの日、あなた方がその力で多神教徒たちを殺したのではない。アッラーがあなた方を助けたのだ。あなたが砂を多神教徒たちに投げたとき、あなたが投げたのではなく、アッラーが投げて敵に届かせたのだ。これは信者を試みるため、かれからの恩寵として、かれが信者たちを少ない兵員と武器で試みたのだ。それでかれらがアッラーに感謝するかどうか。本当にアッラーはあなた方の祈りと言動について、全聴にして、何があなた方にとり最善かも、全知である。

18 多神教徒たちを殺し、砂を投げて、あなた方に勝利を与えるのは、すべてアッラーである。アッラーはイスラムに反する多神教徒たちの企みを弱らせる。

19 多神教徒たちよ、もしあなた方が不正な侵害者たちにアッラーがその懲罰と悲惨さを与えることを求めるならば、実にそれはすでに与えられた。それはあなた方への罰と信者への教訓として与えられた。あなた方がその要求を止めるならば、それはあなた方のために最も善い。というのは、直ちに時間の余裕を与えられ、一方あなた方への報復が急がれることはないだろうからだ。しかしあなた方が信者への攻撃に戻るならば、われらもあなた方への懲罰と信者への支援に戻るだろう。たとえあなた方の軍勢が大勢いて、武器が多くても、役に立たない。アッラーは、信者たちに手助けと支援を送られる。アッラーと共にいる者を征服するものはいないのだ。

20 信仰する人たちよ、アッラーとその使徒に従え。命令に従い、禁止されたものは避けよ。命令に反し、禁止事項を破るのではない。啓示の言葉を聞いておきながら、それに背いてはならない。

21 信仰する人たちよ、偽信者や多神教徒たちのように、わたしたちはクルアーンを聞いたと言っておきながら、熟慮と教訓を伴う聞き方をしない人のものであってはいけない。それから学ばなければいけない。

22 アッラーの目にとって創造物の中で、地上で最悪の生物とは、真実を受け入れようとしては聞かない者であり、アッラーの命令も禁止も分からずに物言わない人たちだ。

23 もしアッラーが、かれら多神教徒や嘘つきたちにわずかでも善いところを認めたとすれば、かれはかれらに益のあるものを聞かせ、その証拠や証明を理解させる。ところが、かれらに善いところはないと知っているのだ。かれらに仮に聞かせても、かれらはしつこく反抗して背き去るのである。

24 信仰する人たちよ、アッラーを信じ、その使徒の呼びかけに応えよ。かれがあなた方に生を与える真理へと呼びかけるとき、かれらの命令に従い、禁止事項を避けるように。かれが何でもでき、あなた方が真理への服従を拒否するならば、あなた方と真理の間を隔絶させてしまうこともできることを確信せよ。だからそこへと急げ。復活の日には、集められるのだ。現世での行為によって、報われるのである。

25 信者たちよ、罰に注意しろ。それはあなた方の中、特に不正な人たちだけに降りかかるのではない。他の人たちもそうで、不正が広がり阻止されないときはそうである。反逆する人たちにアッラーは、厳しく懲罰されることを知れ。だから反逆しないように。

### 本節節の功德:

- アッラーと共にいる人たちは、援助され勝利する。たとえ弱くて、少数でもそうである。そのように共にいられるかどうかは、その人の現世での信仰行為次第である。
- 信者はアッラーから与えられた義務を果たし、物質的要因を満たすことが求められている。それからアッラーに帰依して、その結果に関しては、至高なるアッラーのお任せするのである。
- これらの諸節が証明するのは、善のない人の信仰は役立たずで、至高なるアッラーもその信仰は認められないということである。
- 僕は多く祈りを上げるべきだ。「心変わりさせるアッラーよ、あなたの教えにわたしの心を縛り付けてください。心を動かす方よ、わたしの心をあなたに従わせてください。」
- アッラーが信者に命じられたのは、不信仰が広まって、懲罰が広まらないようにということである。

وَأَذَكُرُوا إِذْ أَنْتُمْ قَلِيلٌ مُسْتَضْعَفُونَ فِي الْأَرْضِ نَخَافُونَ  
 أَنْ يَتَخَفَتَكُمْ النَّاسُ فَنَاقَوْكُمْ وَإَيْدِكُمْ بِبَصْرِهِ وَرَزَقَكُمْ  
 مِنَ الطَّيِّبَاتِ لَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ ﴿٢٦﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا  
 لَا تَخُونُوا اللَّهَ وَالرَّسُولَ وَتَخُونُوا أَمْنَكُمْ وَأَنْتُمْ تَعْلَمُونَ  
 ﴿٢٧﴾ وَعَلِمُوا أَنَّ أَمْوَالَكُمْ وَأَوْلَادَكُمْ فِتْنَةٌ وَأَنَّ اللَّهَ  
 عِنْدَهُ أَجْرٌ عَظِيمٌ ﴿٢٨﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ آمَنُوا إِنْ تَتَّقُوا  
 اللَّهَ يَجْعَلْ لَكُمْ فُرْقَانًا وَيُكَفِّرْ عَنْكُمْ سَيِّئَاتِكُمْ  
 وَيَغْفِرْ لَكُمْ وَاللَّهُ ذُو الْفَضْلِ الْعَظِيمِ ﴿٢٩﴾ وَإِذْ يَمْكُرُ بِكَ  
 الَّذِينَ كَفَرُوا لِيُثْبِتُوكَ أَوْ يَقْتُلُوكَ أَوْ يُخْرِجُوكَ وَيَمْكُرُونَ  
 وَيَمْكُرُ اللَّهُ وَاللَّهُ خَيْرُ الْمَكْرِينَ ﴿٣٠﴾ وَإِذْ أَنْتَ عَلَىٰ عَلَيْهِمْ  
 ءَايَاتُنَا قَالُوا قَدْ سَمِعْنَا لَوْ نَشَاءُ لَقُلْنَا مِثْلَ هَذَا إِنْ هَذَا  
 إِلَّا أَسْطِيرٌ الْأُولِينَ ﴿٣١﴾ وَإِذْ قَالُوا اللَّهُمَّ إِنْ كَانَ هَذَا  
 هُوَ الْحَقُّ مِنْ عِنْدِكَ فَأَمْطِرْ عَلَيْنَا حِجَارَةً مِنَ السَّمَاءِ  
 أَوْ أَتِنَا بِعَذَابٍ أَلِيمٍ ﴿٣٢﴾ وَمَا كَانَ اللَّهُ لِيُعَذِّبَهُمْ وَأَنْتَ  
 فِيهِمْ وَمَا كَانَ اللَّهُ مُعَذِّبَهُمْ وَهُمْ يَسْتَغْفِرُونَ ﴿٣٣﴾

26 信仰する人たちよ、あなた方がマッカにおいて少数で、抑圧されて圧迫されていたときを思い出せ。あなた方はマッカの多神教徒が、あなた方を直ちに滅ぼしてしまうことを恐れていた。でもかれは、あなた方にマディーナという避難所を与え、かれの助けによってバドルなど戦地であなた方を強くされ、また様々な善いもの、要するに敵から捕獲した戦利品を与えた。あなた方は、アッラーの恵みに感謝し、それを増加してもらえらるだろう。もし不信仰であるならば、その恵みを奪って、苦痛を与えるだろう。

27 信仰する人たちよ、アッラーとかれの使徒の命令や禁止事項を無視して裏切ってはいけない。また教えのことも、信用されたことについても、故意にその信頼を裏切ってはいけない。

28 財産と子供を愛することで僕を裏切りに追いやっているならば、それは試練であり、アッラーは次のように言われる。信仰する人たちよ、あなた方の財産と子女は1つの試練であり、それはあなた方を来世のための活動から妨げ、そして裏切りとなるかもしれない。アッラーにこそ、そしてかれの御元にこそ絶大な報奨があることを知れ。また財産と子女のためにこの報奨を失うことのないように、そして裏切りにならないように。

29 信仰する人たちよ、もしあなた方がアッラーを畏れて命令を守り禁止を破らないならば、かれはあなた方に真偽の識別を与え、それを間違わないようにし、あなた方の悪行を取り消し、その罪を赦す。アッラーは偉大な寵愛の持ち主なのだ。その寵愛の一部が、信者に用意された楽園である。

30 また不信心な人たちが、集結して、あなたを捕虜にし、または殺害し、または追放しようと画策したときのこと。かれらは策謀したけれど、アッラーも計略した。そしてアッラーは最も優れた計略者なのである。

31 われらの印が、かれらに読誦されるとき、かれらは真実に対して傲慢にして言った。確かにこれまでに聞いたことがある。もしわたしたちが望むならば、クルアーンと同じようなことが言える。これは、先祖の昔の嘘にすぎないのだ。われわれは信じない。

32 使徒よ、また多神教徒たちはこう言った。アッラーよ、もしこれが本当にあなたからの真理であるならば、わたしたちの上に空から破壊の石の雨を降らせるか、またはわたしたちに激しい苦痛をもたらせよ。それは反発と拒否を誇張してのことであった。

33 でもアッラーは、あなたがかれらの中にいる間は、かれらを破滅の処罰はしなかった。それはイスラームへと呼びかけられる人々であれ、既にイスラームに入った人々であれ、同じこと。ムハンマドよ、あなたがかれらの間に生きている間は、かれらにとって安全保障となり、またかれらが赦しを請うている間は、処罰しなかった。

**本諸節の功德:**

- 感謝はアッラーの恩寵が増幅される偉大な恵みであり、それを無視することはその恵みも減少することとなる。
- 信頼は正しいムスリムの重要な資質である。それを確立し、それにより行動するのである。それは精神の清浄さの証拠であり、行動の中庸さを物語る。
- 禁止されたことから遠ざかることは、財産や子弟のために禁じられたことに手を染めて得られる益よりも大きい。
- これらの諸節の中には、異論を唱える者たちの馬鹿々々しさについての証明がある。かれらは、アッラーよ、これがあなたからの真実ならば、それに導いてくださいと言わないからだ。
- これらの諸節には、赦しを請うことの恩寵と恵みに関して明らかにしてある。それは懲罰を防いでくれるのだ。

وَمَا لَهُمْ أَلَّا يُعَذِّبَهُمُ اللَّهُ وَهُمْ يَصُدُّونَ عَنِ الْمَسْجِدِ الْحَرَامِ وَمَا كَانُوا أَوْلِيَاءَهُ إِنْ أَوْلِيَاءُؤُهُ إِلَّا الْأَمْتَفُونَ وَلَكِنْ أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٣٤﴾ وَمَا كَانَ صَلَاتُهُمْ عِنْدَ الْبَيْتِ الْأَمْكَاءِ وَتَصَدِيقَهُ فِدْوَةً أَوْ فَوْقَ الْعَذَابِ بِمَا كُنْتُمْ تَكْفُرُونَ ﴿٣٥﴾ إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا يَنْفِقُونَ أَمْوَالَهُمْ لِيَصُدُّوا عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ فَسَيَنْفِقُونَهَا ثُمَّ تَكُونُ عَلَيْهِمْ حَسْرَةً ثُمَّ يُغْلَبُونَ وَالَّذِينَ كَفَرُوا إِلَىٰ جَهَنَّمَ يُحْشَرُونَ ﴿٣٦﴾ لِيَمِيزَ اللَّهُ الْخَبِيثَ مِنَ الطَّيِّبِ وَيَجْعَلَ الْخَبِيثَ بَعْضُهُ عَلَىٰ بَعْضٍ فَيَرْكُمَهُ جَمِيعًا فَيَجْعَلُهُ فِي جَهَنَّمَ أُولَٰئِكَ هُمُ الْخٰسِرُونَ ﴿٣٧﴾ قُلْ لِلَّذِينَ كَفَرُوا إِنْ يَنْتَهُوا يُعْطَر لَهُمْ مَا قَدَّ سَلَفَ وَإِنْ يَعُودُوا فَقَدَّ مُضَتَّ سُنَّتُ الْأَوَّلِينَ ﴿٣٨﴾ وَقَلَّتْ أَمْوَالُهُمْ حَتَّىٰ لَا تَكُونَ فِتْنَةٌ وَيَكُونَ الدِّينُ كَلَّةً لِلَّهِ فَإِنْ آنتَهُوا فَإِنَّ اللَّهَ بِمَا يَعْمَلُونَ بَصِيرٌ ﴿٣٩﴾ وَإِنْ تَوَلَّوْا فَأَعْلَمُوا أَنَّ اللَّهَ مَوْلَاكُمْ نِعَمَ الْمَوْلَىٰ وَنِعَمَ النَّصِيرِ ﴿٤٠﴾

34) かれらがアルマスジド・アルハラームで人々が巡回(タワーフ)し、礼拝するのを妨げたのだから、アッラーがかれらを処罰せずにいることがあるか。多神教徒たちは、アッラーの同盟者ではない。それはアッラーを畏れ、命令を実行し禁止を守る人に限られる。しかしかれらの多くはそれが分らない。かれらはそうではないのに、自分たちがアッラーの同盟者だと言い張っているからだ。

35) アルマスジド・アルハラームにおけるかれらの礼拝ぶりは、ただ口笛を吹いて拍手しているだけだ。多神教徒たちよ、バドルの戦いではあなた方がアッラーに対して不信心であったり、使徒を拒否したりしたことに対して、殺されたり捕虜になったりする苦痛を味わえ。

36) 信じない人たちは、アッラーの道から人々を妨げるために、その財産を費やす。しかしその目的は達成しない。費やした財産は、何も達成しなかったので、かれらの後悔の種となり、間もなくかれらは信者によって負かされる。審判の日、不信心な人たちは、地獄に追いやられて、そこに入れられ、そこで永遠に住み続けることとなる。

37) アッラーの道から人々を妨げるために資財を費やす不信仰者たちは、地獄の火に追いやられ、アッラーは悪人を善人から区別される。かれは悪人、悪行、そして資財を次々と積み重ね、かれらを山積みにして地獄に投げ込む。これらの人、かれらこそ失敗者なので、かれらは自らの魂とその家族を審判の日に損ねることとなるのだ。

38) 使徒よ、アッラーと預言者について不信心な人たちに言え。あなた方が不信心とアッラーの道から人々を妨げることを守るならば、過去のことは赦されるだろう。イスラームは過去の罪を消去してくれるからだ。しかしかれらが繰り返すならば、以前の人々の事例がすでに警告としてある。拒否して不信仰を継続したので、かれらは迅速に罰されることとなった。

39) 信者よ、多神崇拜やアッラーの道から人々を妨げることがなくなり、教えと服従が何も並べられることなくアッラーのみに向けられるまで、戦うように。そして不信仰者たちが、多神崇拜を止めて、またアッラーの道から人々を妨げることを守るならば、かれらを放免せよ。確かにアッラーは、かれらの行なうことすべてを見ておられ、何事も隠されるものはないからである。

40) そもそもしかれらが不信仰を捨てるように、そしてアッラーの道から人々を妨げることを守るようにとの命令から背き去るとすれば、間違いなくアッラーがあなた方の擁護者となる。つまり最善の擁護者であり、最善の援助者であるのだ。誰であれ、アッラーが擁護される者は成功し、かれが援助される者は勝利するのだ。

#### 本諸節の功德:

- アルマスジド・アルハラームから妨げること、酷い罪である。そうする者は、現世と来世の懲罰に相当する。
- アルマスジド・アルハラームの管理維持は、アッラーを畏れるアッラーの同盟者のみの名誉である。
- クルアーンの言葉には、不信仰者の誤った支出は何も達成しないという警告が含まれている。かれらをすぐに、くやしさと後悔が襲うこととなる。
- 不信仰者に対する改心と信仰へのアッラーの呼び掛けは、かれらの執拗さにも拘らず、いつも開かれている。
- アッラーが擁護され援助される者は、恐怖を持たない。しかしアッラーを敵とする者は、名誉から遠い。